

昭和四十三年三月招集

第一回市議定例會會議錄(第四号)

館山市議會第一回定例会會議錄(第四号)

昭和四十三年三月招集

三月十三日(水曜日)

一 議事日程

議案第四号 昭和四十三年度館山市一般會計予算

議案第五号 昭和四十三年度館山市国民健康保険特別會計予算

議案第六号 昭和四十三年度館山市簡易水道事業特別會計予算

議案第七号 昭和四十三年度館山市上畜場特別會計予算

議案第八号 昭和四十三年度館山市休養施設特別會計予算

議案第九号 昭和四十三年度館山市館山バス・ホテル特別會計予算

計予算

議案第十号 昭和四十三年度館山市南部簡易水道事業特別會計予算

午前十時八分 開議

副議長(西村真次君)本日、出席議員数 三十二名

こより第一回市議会定例会第四日の会議を開会いたします。

本日、議事はお手元配付の日程表により行ないます。
日程第一議案第四号乃至第十号 昭和四十三年度
一般会計並びに特別会計予算案を一括して議題
といたします。

こより各予算案の内容説明を求めます。

まず前例にならういて議案第四号一般会計
予算の歳出の部より行ないます。

こう際各説明者に申し上げます。説明は演壇で
重点的かつ簡明適切にお願いします。

当局より予算中誤字があり、こいを訂正いたし

たいということであります。

暫時、これを許します。

。財政課長（長谷川広治君）大へん御迷惑をおかけ申しま
すが、予算の誤まりがござりますので、付記の欄の注
訂正をお願い申し上げます。申し上げましたうちに印
刷に付しまして、ただちに配付いたしたいと思いますので
御了解願います。

四五ページが歳入・雑入の三行目、キャンプ場整理費
とありますが、これを「キャンプ場禁止標識作成協力
費」五七ページ歳出十四その付記の欄、土地借上料
となつておりますが、土地の下に自動車等借上料と
「自動車等」を入れていただきたいと思います。

七七ページ十五節四百五十万とございまして、青年館
建設事業三館となつておりますが、「二館」に御訂

正をいただきたいと思います。

八三ページ予防費・前年度、額が六百五十二万三千円とござりますが、これは、六百二十五万三千円、誤まりでござります。

一〇〇ページ観光費・金、キャンプ場管理人というふうにあります。が、「キャンプ対策費」に改めていただきたいと思います。

一〇二ページ、キャンプ場管理事務所となっておりますが、「海水浴場管理事務所」と訂正願います。

一〇二ページ同じくキャンプ便所設置となっておりますが、「海岸便所」と御訂正いただきたいと思います。その下に同炊事施設とありますが、これは削除をお願いします。たいと思います。その下に同電気工事というものがござります。同を削っていただけます。その下に同案内

標識というものがござりますが、これも「同」を削除お願いいたします。のちほど印刷してお手元に配付いたしますので御訂正をお願い申し上げます。

(財政課長 登壇)

財政課長(長谷川 広治君) 議案第四号「一般会計について御説明申し上げます。

七ページをお開き願いたいと思います。本年年度の予算総額を十億六千七十四万八千円ということに計画をいたした次第でございますが、この数字は四十二年度の当初予算から比較をいたしますと、一〇・三・六七%というふうに相なります。

昨日、御決議をいただきました補正予算の最終数字から申し上げますと、九八・六四%というふうに相なります。なお、予算規模を一べつて見ます。

と、本年度一般会計予算、市民一人当りの額は一
 千九百八十七円三十文、銭ということに相なります。
 四十一年度、当初が一萬八千三百十四円三十四銭
 でございまして、なお参考に申し上げますと、本年
 度の特別会計の市民一人当りの額が七千三
 百二十六円三十銭ということに相なります。従いま
 して、一般会計、特別会計を合わせまして、市民
 一人当りの額は二万六千三百十三円六十文、銭とい
 う予算規模に相なるわけでございまして、これを財源
 別に見ますと、一般財源が六四％、特定財源が三六
 ％ということに相なります。
 これを財政力指数で申しますと、六一・九八％、約六二
 ％ということに相なります。

これは四十一年度におきましては、当初五五でございまして、

若干自主的な運営ができるという数字に相なったわけでござります。

歳入歳出の区分等は九ページから一六ページまでいそいそ計上いたしてござりますが、説明は二一ページから二四ページの明細書により、いそいそ御説明を申し上げたいと存じます。

なお歳出の予算の性質別のものを申し上げますと人件費総額が三億五千二百六十三万二千円、予算の構成比率で申し上げますと三三・二%ということでございます。前年度の人件費に対応いたしますと一八・七九%ということになります。

物件費総額で一億三千四百八十万三千円、全体の構成比率から申し上げますと二二・七%、四十二年度の当初対になりますと一〇・五・二八%ということと

でございます。

維持補修費総額が二千百四万二千円、全体予算の約二%程度でございます。

前年度の当初予算対比は八二・七六%でございます。建設事業関係でございますが、総額二億八千三百八十四万円でございます。

全体の構成比率から申し上げますと、二九・七%という比率に相なります。

その他建設事業費としては入っております三万、富浦、上水道関係への繰り出し金、これも建設費でありますので、如えますと、三億千四百十四万という二%に相なります。

他にその他でございます一億六千五百四十六万六千円という二%に相なります。

第二条として債務負担行為を本年年度四行為設定
をいたしてございしますが、第二表と十一六ページで
ございます。椰子の購入費四百三十万、橋梁の
新設改良工事費として四百七十万、都市計画街路
事業の工事費として五百三十万、北条小学校の
建築設計をいたしまして委託料で八百七十五万
円、それぞれ額を限度額といたしましてその
範囲内での債務負担行為を設定をいたした
わけでございます。なお債務負担行為につき
ましてはそれぞれ各主管課長より詳細に御説
明申し上げます。

第三条に地方債として本年年度計上いたしまして
額は八種目で六千八百万円でございします。
起債の目的、それから限度額、起債の方法

利自償償還の方法等に区別いたしまして、その
 ぞい計上をしておりますが歳出に對しまして
 そのぞい起債の許可基準がら適當と思わゆる
 額をそのぞい計上いたしております。

こいもそのぞい担当の種目につきましては主査
 課長より説明をいたすと思ひます。

四糸に一時借入金として本年度の借入の最高
 額を四千万として計画をいたしております。

今年には市民センターが年度当初にでき上る關係
 上、財源的に考えまして一時借入のな
 けいばならないような時点を考えまして一時
 借入の額を四千万円といたしたわけであり
 ます。

第五條に平算の流用關係といたしまして人件

費の彈力条項を計上してございます。これは項
内における項間における給料、職員手当、
共済費、いわゆる人件費の過不足を生じた場
合の規定でございまして、地方自治法が二百二十条
第二項のただし書により設定したものでござ
います。

以上で総括的な御説明を終りまして、財政課所
管の予算について御説明を申し上げます。
まず、四九ページの議会費を簡単に御説明申し上
げます。

議会費につきましては、本年度二千四百三十一万二千円を
計上いたしてございますが、大部分の額が報酬、給料
等でございまして、それ以外の現在、条例或いは現員
等を勘案いたしまして、それ以外の額を設定いたして

でございます。

経常費につきましては昨年度と大差ございませんので、それより説明欄にすり卸了承をいただきたいと思います。

五五ページ、財政管理費に移らせていただきます。財政管理費におきましては本年度二十六万六千円の計上額でございますが、財政関係の管理につきましても、経常的なと申します。日常的な仕事でございますので、その金額はかわっておりませんが、本年度四万円ばかり増額しております。内容といたしましては十一節にございます。紙面費用が十七万四千円、このうち印刷製本費として十三万八千円を計上いたしました。これは予算書の印刷をどうしても外部に発注をいたしておるわけ

でございます。その値より、それから若干部数をふ
ゐて印刷いたらないということと十三万八千円を本
年度計上いたらないものでございます。

他の費目につきましては、前年と大差ございません。
それぞ付記欄により御了承をたまわりたいと存
じます。

五大ページ五目、財産管理費として本年度六百八十七
万七千円で昨年度と比較いたりますと十四万八千円の
増額と相なっております。増額のうち主な理由とい
うまゝでは、五ページの十五工事請負費として八十万
計上いたしまして、またもうが新しくまた大きなもので
ございますが、これは庁舎の入口前が一部、か舗装
して、いたために非常に雨の日なんかは、庁舎の中
が濡れるということと水たまり等が出て一般市民

に大へん御迷惑をおかけいたします。今回
あそこを舗装いたしたいということで八十万円計上い
たいたものでございます。なお最初から申し上げます
と報酬二十万円、これは財産審議委員会委員報酬
でございします。

賃はボイラー技師、年間、賃金一人分でございします。
需用費として二百六十三万五千円、役務費として二百三
十三万六千円を計上してございしますが、これは庁舎
全般の経費と申します。か、電気、電話、そういうも
ろから一切のものを含めたものでございまして、昨年
度より若干落してございますが、この程度で四十
三年度は揮毫できるといふふうな考え方から計上
をいたしたものでございます。

なお登記関係手数料として役務費の中に十萬計

上っておりますが、これは市有財産の登記関係を
代書に委託する費用として計上いたしております。
これは本来、私どもが職員が充てゐるものでござい
ます。お、むづかしいと申しますか。そういうものは、専ら
家の方にお願ひいた方が能率的でございますので、
一昨年から実施をいたしてゐるものでござります。
十四節、使用料及び賃借料として四万七千円計上
いたしております。昨年度から三十万ばかり増額
をいたしておりますが、これは私どもの方で管理を
いたしております。乗用車関係を相当車もいたんで
参りまして、買いかえをしていかなければならない時
点でございますが、市内の産業の振興と管理上
の経費の点を考えまして、一部の乗用車につきまし
ては民間のハイヤーを借り上げて、それを使用する

というふうな計画のもとにそう借リ上げ料を二十
八万ばかり計上をいたしまして。

それから十三節ノ委託料として十五万計上いたして
あります。これは本年度新たに設定をいたしたも
うででございます。庁舎の窓ガラス等を職員で

何回か掃除をしてもらったわけでございしますが、最
近よこがめだつて参りまして年二回は職員
で年二回は一般の業者にお願ひして市民の感に
ういような庁舎にいたらないということでは一回分七
万五千円ずつ二回分計上をいたしております。

今申しますようなものがかわつたもの、或いは大きなも
うでございまして他は説明欄にあり、それから御了
解をたまわりたいと思つております。以上で終括的なも

の及び財政課所管のものも説明を終わらせていた

でございます。

(人事課長 登壇)

・人事課長(小沢正治君)引き続きまして人件費関係について申し上げます。

一四〇ページをお開きいただきたいと思います。

給与明細書といったしまして一般会計に関します款項別の累計が三三に一括計上されておるわけでありまして、各款の人件費部を三三に一括集約集計いたしております。従いまして三三で比較関係ができておりますのは、昭和四十二年度の当初予算に計上されております。たもつ比較でございます。

総計でます。職員数におきまして特別職の職員数が千二百二十名で前年度が千三百七十七名比較いたしまして、百五十七名減。こゝ減と申しますのは各部内

別に新設或いは廃止等がございますけれども、概括的に申しまして、昨年度と本年度と、比較では選挙の数が相当違うというところで、選挙関係の管理費以下、五会人関係の特別職の数がおもな減員でございまして、

一般職の職員数におきましては、本年度計上いたしたものが四百四十九名、前年度当初予算に計上された職員数が三百九十名でございまして、五十名名の増というところであります。

この内訳は、繰り入れの職員数が四十四名、市長部局でございしますが、新陳代謝の結果、さらに部門強化関係で増員が、総括で四十四増加、十六総括で六十でございしますが、消防関係におきまして、次長が市長部局に転出した、また関係で署長

が次長兼務というふうなことで、其實、昨年の予算計
上分と比較いたしまして、一名減というところで、合計
いたしまして、五十九名う増になるわけでございます。
さらに部局別う内訳といたしましては、市長部局で
四十、教育委員会部局で二十う増で、消防部局で
一名う減、差し引き五十九う増という予算計上の
内容になっております。

給与費で報酬が二千百十七万二千円、前年度に比較
いたしまして、百五十六万四千円う増額、給料が二億二
百七十四万九千円で、前年度に比較いたしまして、三千
二百九十三万四千円の増、職員手当、共済費、その他
い、そこに計上されております数字が一般会計の累計
の総額でございますが、合計いたしまして、三億五
千二百六十三万二千円、構成比等につきましては、先

ほど財政課長の方から御説明申し上げたとおりで
 ございます。従いまして四十二年度当初予算
 に対しまして大体総額におきまして一八・七%程度
 の伸張率ということになります。これを参考まで
 に常勤三役及び教育長を除きまして純然たる
 一般職の関係で申しますと三億一千九百四十万七
 千円とあります。そのパーセンテージは総予算に対
 しまして約三〇%ということになります。この中で職員
 手当に關しまするもの各手当別々内訳がその下に
 列記してございます。その合計額が一億七百七十七
 万六千円ということになるわけでございます。この中で特別
 外勤務手当は一応給料の六%が計上されておる
 わけでございます。なお共済費の中には昨年十
 二月議決をいたしまして非常勤の特別職の公務

災害補償に関する条例が施行されたわけでございますが、一般職の關係につきましては法律に基きまして公務災害補償の基金が全国的に統一されました。設置されています關係で、ここは年々負担金を払い込んで参ります。その分が約四十一万一千円含まれております。以上概括的に人件費について申し上げたわけでございますが、あと特別会計につきましても一応、そのような見方で御参照いただきたいと存じます。

次に人事課関係の課目について御説明申し上げます。

五四ページに事務研究会等負担金、職員団体定期保険料、職員互助会補助金、退職手当組合負担金というものが出ております。

ニう事務研修会負担金と申しますのは一般職が事務
 の研修会等各種開催のコースで、それに参加する負
 担金でございます。ニに計上いたしまして予定と
 いたしましては、県の主催にします。市町村の助役・収入役
 研修会負担金、それから人事院の指導者養成
 課程講習会、それから監督者研修会が人事管
 理協会という法人によつて実施される。ニにも参加
 いたす。

それから財政能率短期大学主催によります。行政
 管理士資格取得講習会というものがござります。
 これらが最近事務改善能率改善推進の関係が各
 大学、ニういった協会、さらに一般民間企業の間で盛ん
 に行われているわけで、その中に官公署が参加しなから
 事務能率の改善施策を推進するため非常に参

考にかります。勉強になるわけでございますので、本年度もさらに積極的にこういうた研究に参加して参りたい。その関係で負担金八万円をお願いする次第でございます。

次に職員団体定期保険料でございますが、これは金岡市長会が実施しております。職員の団体生命保険でございます。これは五年以上の勤続と五年以下、一年以下、勤続年数に応じて保険金が二十万、十萬、五万というふうに段階別になっております。それぞれ対します。一年間ずつ、掛け捨て保険でございます。これは五年以上でありますと、死亡の際に二十万円の給付があるわけでございますが、昭和四十三年度と現在まで二名、二十万の保険を取得された例が本市においても出ております。

次に互助会でございますが、これは昭和四十年十月一日に議決をいたさまいで、この補助金がスタートしたわけでございますが、職員が冠婚葬祭関係の慶弔贈呈金のほかに退職時の生業資金金といったしまして規約をもちまして一定率の給付を行なうといふというものでございまして、これを職員がお互いに負担して掛け合う金額と同額を市で補助していただくというものでございます。

それから次に退職手当組合の負担金でございますが、これは特別職分、一般職分、臨時職分を含んでおります。それから退職手当組合の条例によりまして率が定められております。さらに特別会計負担金といったものでは、勧奨退職を実施する場合に、それぞれのルールに従いまして、普通退職に上積みした

優遇条件で退職手当が支給されることになるわけでございますが、その場合に普通退職の差額の二分の一を市が特別負担するという制度になっているわけでございます。本年度にこの関係が二名分予算化いたしてございまして、その額が大体五十七万八千八百円見当りのものがこの中に含まれております。

以上人件費関係の御説明を終りまして、次に事務改善関係につきまして御説明申し上げます。

五九ページでございします。ここでは役所の事務改善の推進に関しまして人事課の中で事務改善係が置かれておりますので、いろいろ活動を主体として必要経費でございしますが、報償費の一万二千円の提案制度報償費と申しますのは、このような改善を実施して参りますので、やはりひとりひとりの新しい考え方

ヒントをうけても積極的に取り上げていくとい
う形も大切でございまして、そういう意図がも
とに提案制度に關しまする規則が決定されてお
ります。そう提案で取り上げるべきものがある
場合の報償費、一月額一千円程度を見
込んで計上したわけでございます。

次の研修旅費十八万八千円、この關係は職員一般、
研修員、旅費の中にも若干触れまいけれどもさ
うに高度な事務改善理論・システム実践、そうい
った關係の研究會、或いは講習會等が全国的
に盛んに各種グループを通じて実施されております。
そういう關係にやはり改善の中心になります人々
が積極的に参加していくという關係から、この
旅費と負担金をお願いするわけでございます。

内容といつてまゝでは県下に市町村行政能率研究協会というものが地方課を中心に各市町村参加して、設置してございまして、この中で公務能率の促進研究或いは事務改善、電気計算機を含みます、機械導入によります事務改善方式の研究等が行なわれております関係上、これに参加していく。それから財団法人で地方行政近代化協会というものがございまして、ミでは特に全国を対象といつて、一般企業、或いは官公庁含めて、こういう研究が進められております。さらに日本事務能率協会というふうなものでは、特に地方財政、税、そうして憲法関係、プロフィールいろいろ研究され、また実践の研究発表会等を持ってありますので、これにも参加して参る予定でございします。それから市町村の行政経営研究会というのもございます。

います。　　こういふ各種の事務改善関係の
勉強をするための旅費でございます。　　二に付随
いたしまして、その際に負担金を必要とするようにな
るものが十九節に六万九千円も願います。　　次で
でございます。

非常に大いかな説明で恐縮でございますが、以上
で人件費関係と人事課所管部門の説明を
終らせていただきます。

(秘書課長 登壇)

秘書課長(小倉登男君)秘書課関係の予算について
御説明申し上げます。

五ページ総務管理費の一般管理費中、まず八節
の報償費でございますが、昨年より減額してござ
います。　　これは関東市議会におきまして二十年

勤続職員に表彰を受賞した方に市長から記念品をそえて差し上げるといふのが一万五千元、その他職員、研修講師謝礼、職員採用委託謝礼を計上しておられます。旅費は昨年と同額でございます。文庫費におきまして、昨年も二十五万増の二百三十万を計上させていただきました。

需用費は昨年より減になっております。これは大体総務関係、人事、秘書、財政、庶務関係の消耗品、印刷製本費、総括した予算でございます。

役務費も同然でございます。さらに委託料十三節十万円、これは人事の方でござります。会計機、バロスの年間サービス委託、契約費でございます。使用料、これも同額でございます。

十八節、四課の庁用備品、購入の額を八

万三千円計上させていただきます。

十九節でございますが、これはそれゆゑこの付記にござります。全国市長会の負担金、関東市長会負担金、果下市長会負担金をそれゆゑ市長会が規約に従ひましてそれゆゑそれゆゑの額をここに計上させていただきます。さらに全国基地協議会、防衛施設周辺整備全国協議会、それから全国漁業基地所在都市協議会、国際親善都市連盟、分担金以上のもうは全国市長会といつて都市財政の向上のために全国都市大団体とともに活動します。諸経費のために、これらの各協議会が結成さるゝと、関係市町村がその会員となりまして活動いたしておるわけでございますが、その負担金をそれゆゑここに計上させていただいた次第でございます。それから世界青年会は姉妹都市の

関係の負担金でございます。

鉄道事業債利子補給金 四百三十三万四千円を計上いたしまして、この点について御説明申し上げます。

昭和四十年以来、房総西線の電化複線というところから、まづ、その陳情の結果、房総西線の電化複線が四十年からスタートにわけてございます。現在まで、二十九億八千万円の鉄道利用債というものを鉄道におきまして発行いたしまして、この資金を金と融機関がかわりいたしまして、市長の施政方針の中にもありまして、四十四年七月までに電化複線が完成するという事で、本年は、その最終年度、利子補給率でございまして、残額、房総西線に關しまして、十億七千万円に対して、さらに電流基定とか、車両増強によるホームの整備等に二億六千万、

計十九億三千七百万円、利用債の利率が六分七厘
でございますが、かたがわりするためにさらに銀行との
差額、昨年までは八厘五毛であつたのをございしますが、
公定歩合の引き上げ等によりまして、一分二厘二毛七厘と
いうことで、これはまた果が中心になりまして、ただいま金
融機関等と折衝中でありますが、確定は四月、五月
頃確定するようでございしますが、一応各関係市町
村におきましては、八分の差額を支払うということであ
るかたがわりする利子、額が房総西線関係で一億
二千六百十九万余円でございしますが、館山市はそう
いう約六・七%の四百二十三万四千円を負担すると
いうことになりまして、ここに計上した次第でござい
ます。それより、六十一ページ市史編さん費でござい
ますが、総額におきまして、百九万一千円を計上さ
せていただいております。これは、

先般の四十三年度の補正予算にも市史編纂委員会を
結成いたしまして多額の額をお願いした次第であ
りますがいよいよ四十三年度から明治百年記念事
業としまして市史編纂人をスタートするということであ
る。般も市史編纂人委員会を開きましておはかり申し上
げました方針等につきましておおむねできたとござ
います。が、まず、その前に資料収集、それから執筆
者の依頼等につきまして三名の決定は見ただござ
います。が、一か一非常な大事業でございますので
もつとさらに折衝しなければいけないということであ
る。いまそれより執筆者を折衝中でございます。が
とりあえず経費といたしまして、二に百九万一千円
を計上した次第でございます。なお、市史編纂人
は予定といたしまして、四十三年度、四十四年

度四十五年度と約三カ年う計画をもちまゝ市史を編さんして完成させたいという意向でございます。以上、秘書課関係につきまゝ大へん簡単にございしますが、御説明申し上げました。

(収入役登壇)

収入役(高木哲三君)五六ページう会計管理費について御説明申し上げます。

本年度四十一万四千円計上いたしまして、昨年に比べて十一万五千円う増になっておりますが、この増は十一節需用費う印刷製本費で八万二千円、消耗品費で二万六千円、食料費で七千円、増でございまして、印刷費う増は決算書う印刷費う増を見込みました。その他は、昨年と同様でございまして、説明を省略させていただきます。

(庶務課長 登壇)

・庶務課長(山口実君) 五四ページ二目文書広報費について説明
を申し上げます。このたび五百六十九万三千円お願いいた
—ま—た。

七節 賃金 ミエ方一千円は富崎公民館にあります
平野スエさん 並びに九重の小沢さん このふたりは市
り文書を配達依頼としておる関係上、ここに賃金とし
て本年組みかえしました。九節 旅費は前年並みでござ
います。この内容は市内に配布いたします。文書
配達員の旅費並びにタイア講習に出席させる旅費
でございます。

需用費でございますが、百七十五万二千円、そのうち
印刷製本費で百十五万七千円でございますが、これは
市、広報等、印刷費でございます。

十二節 役務費 四十万二千円 通信運搬費といたしまして四十万八千円、これは郵便料を前年の実績に基いて計上いたしまして。

十三節 事務委託料 二百八十四万三千円でございますが、全市内、町内会にお願いいたします。連絡事務委託料でございます。この積算は十一月

現在、市内の世帯数にさらに本年の四月一日までの増を見込みまして計算したものでございます。一世帯二百円、割合でもつて一万四千二百十五世帯を計上いたしまして。

次に備品費でございますが、その中でレックス・リタリー・謄写器、これは現在、印刷機が相当なくなつたので、ときどき故障が出るので、今回二十万でお願いしようというものでございます。

負担金については前年並計上いたしました。

五九ページ七目公平委員会費について説明申し上げます。
今回八万三千円お願いいたしました。前年度に比較
いたしまして二万二千円増となっておりますが、増
おもしろい先般非常勤の特別職、報酬の改正に
まうまう増額されたものがおもしろいのでございます。
次に六〇ページ九目防災対策費について申し上げます。
十四万二千円お願いいたしました。二、おもしろ
ものといまして、本年災害対策本部員、被服
を整備する計画を立てまして、初年度といたしま
て課長以上、それから職員に被服を購入しようとい
うものでございまして作業衣三十着（ルメット三
二）が合計九万七千円でございします。

次に七〇ページ五項統計調査費について説明申し

上げます。

一目統計調査総務費でございまして、今回三百三十七万三千円となつて、昨年より九十六万五千円増となつておりますが、これは主として給与改定による人件費の増が主たるものでございまして。

次に二目農林統計調査費八十三万四千円でございますが、このうち八節報償費で七十五万、農林統計調査員の報酬百五十人、二十五万円の積算でございまして。

次に漁業統計調査でございしますが、これは五年に一回実施いたします対象者は約五百でございまして。

八節報償費二十七万でございしますが、調査員七十五人、一人三千六百円の積算でございまして。

次に四目商業統計調査費十一万六千円でござい

ます。が、八節報償費十一万二千円、調査員三十七人、一人三千円の積算でございます。

次五目工業統計調査、市内の対象が三百、十二月末現在で調査いたしております。

八節報償費五万二千円、調査員一人三千円、十七人から報酬でございます。

次に六目教育統計調査費でございます。これは五月一日現在で調査いたします。調査員二名、一人二千元、もう割合でございます。以上でございます。

。副議長（西村真次君）暫時休憩いたします。

午前十一時十二分 休憩

午前十一時三十九分 再開

副議長(西村真次君)休憩前に引き続き会議を開きます。

(企画課長 登壇)

企画課長(太貝茂生君)五ページ六目企画費から説明
申し上げます。本年お願いしようという総額は
六十九万二千円でございます。四十二年度と比較いた
し、まして八百八十万二千円の減でございますが、こ
れおもなものは開発公社に対する貸し付け金とが四
十三年度は一般会計、資金操作の關係上、困
難でございまして、一応ゆめたことが大きな理由で
ございまして。こゝ内容を申し上げますと報酬は
昨年同様、額でございまして。五ページでござい
ますが、企業誘致委員会、委員報酬は三回位、開
催予定で計上いたしまして。
次、報償費、三方でございまして、これは今度、はじめて

取り上げらるゝた問題で、市民相違と関連――まゝ
どうしても自分だけの解決はむずかしいので、大体弁護士
を六回依頼む予定で計上させていたんですが、

旅費が七万五千円でございしますが、昨年と大差ございませ
んが、この中に市民相談分として一ヶ月含まれております。
需用費十四万一千円でございしますが、昨年も七万ばかり
減になりました。おります。長期計画の印刷代がなくなり
まゝた。それが減る理由でございします。

十九節の負担金でございしますが、東京湾総合開発
協議会負担金。これも昨年と同様でございします。
次に安房郡広域連絡協議会負担金二十九万九千
円というのが新たにお願いしようというものでござい
ます。こゝは昨年十月に安房郡市一本化――た
広域行政連絡協議会が生まれて、今後、広

城行政を推進してつために、運賃費として、各房郡
市の関係で相談して、結果、館山市の分担
金として二十万九千円、二万算出根拠につきまして
は、人口割、財政収入額の関係だと、細かい基礎から
算出したしまして、結果二十万九千円に相なったわ
けでございます。

次の開発立地研修負担金でございますが、これは東
京に財団法人の工業立地センターというのがございま
す。今後地域開発をはかっている場合、いろいろな資料を
集めて、それを参考に各市町村に提供したり、或いは
研修会等を催したりして、非常に地域開発を進
めていくために参考になります。ことをもっております
ので、それらに加入したい。まして今後、市の方向をで
きるだけ詳細につかむために加入しようというものが、

負担金でございます。

首都圏総合計画協会が負担金でございますが、これも昨年結成された協会でございます。東京、都府県、首都圏、地域、県とか、市町村等も大体加入しておりますが、いふ方も今後研究会或いは貴重な資料等も提供して下さいますし、市町村行政に非常に参考になる協会でございます。これらに加入して資料を得て適切な行政運営をして参りたいという事で加入しようというものでございます。それから、人権擁護委員協議会負担金、行政相談委員協議会負担金、これらはいづれも昨年同様でございます。以上概略でございますが、よろしくお願い申し上げます。

(商工観光課長 登壇)

商工観光課長（山田俊康君）六〇ページ諸費について

御説明申し上げます。

諸費の大部分が交通安全対策について計上されております。

本年度予算額が三百八万七千円のうち市税等還付金三十万を除いた額二百七十八万七千円が商工観光課の担当であります。

交通安全の問題につきましては市長の重要施策の一つということで特に本年度は四十二年度に設けられ、また婦人交通指導員をして教育委員会とタイアップし小学生に交通ルールを身に付けさせるということを重点的に考えていきたいと思っております。

そうして母子の交通安全教室というふうなものも各部落にも出張して行なっていくというふうな

考えております。

交通安全思想の普及、歩行者の安全というような面で
予算全体を見ますと、昨年の比較一まゝで、百十四万
七千円程度ということになっておりますけれども、人件費
関係が一般管理費に移りまして、この人件費百四十七
万ほどでございますけれども、これが移ったために、(三)
いう数字になっております。実質は増加してお
ります。交通安全対策についても、実質的に増加して
いるということでもあります。

安全施設整備の關係、これは昨年施行されました
通学路にかかる交通安全施設の整備に關する
緊急措置法という法律にのっとりまして、市道のうち
どうしてもやらなければならぬところというものが、船形
の信号機のところから、海岸道路でありますけれども、

一中まで道路幅も広いために車道外側線工事をしなけねばならぬということで、この十五節工事請負費中、百三十四万二千円計上されております。百三十四万二千円をもって船形の信号機から一中まで長さ三千七百メートルにわたります。車道外側線を設定いたします。これは国費が二分の一くらいということで六十七万一千円見込んでございます。それから、この工事請負費の中、残りの三十万でありますけれども、これは市内におきます横断歩道、公安委員会です。定めました横断歩道等は当然、県であるべきだということ、県と警察、県土木等にも強硬にいう。本年度はその方向でやるということでありまう。

従前、この警察署管内で特に危険な個所について横断歩道を公安委員会が指示でなく設けた

場所がございます。学校付近、交通が非常にひんぱんで危険であるというふうなことで設けた場所が各所にございますが、それを整理かえということとで昨年同様三十万ということであります。

横断歩道が長さといちまーでは千八百七十五メートル、メイトルが百六十用ほどでできる、で、そういうに計上しております。特にかわりまーたところは工事請負費関係と負担金の中で交通安全対策協議会が補助金従前十万でありまーたもが十三万、二万ふえております。二小は県が連合会がでまーて、連合会組織に館山市の交通安全協議会から、やはり二万円負担しなければいけないということとでふえまーた。

交通安全協会が負担金でございますけれども、交通

安全推進団体と補助育成するというたてまえから
 安全協会におきましては二十一人の交通指導員を
 擁して交通指導という奉仕に尽力しております
 りで、その指導員が制服等の二分の一とそれから
 指導員にかかります。傷害保険も考えて予算
 化した。また、県の交通相談所の負担金十萬
 七千円昨年同額でありますけれども本年は交通
 安全協会千葉県連合会が今まで交通相談所と
 運営していただいておりますが、現在県会で審議中
 でありますけれども、県の課にこれを移管して運
 営していただきたいという方向で審議中であり
 ます。県交通相談所の負担金はそうした場合に
 は支出しないで済む予定であります。

一応、県交通安全協会両方とも二の予算編

成時期に連絡したときには計上してくれないか。とにかく
現在ところろ果の方でも半年分しか予算が取れない
ので、という話があったので一応計上いたしまして
過日果に連絡いたしましてところろ大体不要になる見
込みでございます。

防犯協力会や補助金二十三万。昨年同様で
あります。特に年末、年始或いは夏季等の防
犯について御尽力いただいております。
次の生活保護者及び要保護児童の交通傷害
保険の負担金六万円。これは調査の結果、生活保
護者が六百六十人、小学生で要保護児童が百九
十八、中学生で百六十二、合計千二十八人ございま
す。そのうち一応千人申し込んでも大丈夫だとい
うことで六万円計上いたしまして、以上簡單であります。

すが、交通う説明を終ります。

(調査課長登壇)

調査課長(石渡東君)六二ページ徴税費のうち、税務総務費におきまして調査課に係る部分の、説明をいたします。

一節、報酬でございますが、固定資産評価審査委員と同補助員、審査委員の方は三名で、延十五人分、補助員の方は延八十四名分を見込んでおります。

人件費をとばしまして、一節の賃金でございますが、昭和四十五年一月一日を期しまして土地、家屋の評価がえをしなければならぬことになっております。私たちは現在の陣容では、その人の仕事がちやうど手いっぱいだろうという配置をしております。

ますが土地・家屋の膨大な評価がえをするに当り
ましてそのときになつて事務にかかりましても当然
できませんので、四十三年度に入りまして臨時職
員を約十名、期間は六カ月見当を見込みま
して百万円をお願いするわけでございます。
一応この程度で支度だけは一しておきたい。そうして
四十四年の夏頃までにほぼ完成に近いところまで
手を回わしておきたいというところでお願いいたわ
けでございます。

九節の旅費でございしますが、これは大体が市内出張旅
費でございします。

十一節の需用費は市民課と調査課で大体半々に予算
化しておりますが、内容につきましては、説明欄によつて
御了承いただきたいと思います。

十九節負担金の中に農業所得標準作成協議会と税務連絡協議会が盛らいておりますが、これは前年通りでございますので、よろしくお願いいたします。

(収納課長登壇)

。収納課長(多田俊一君)六二ページ徴税費収納課関係の予算を申し上げます。

税務総務費におきまして四百五十八万二千円、二目う賦課徴収費におきまして八十二万四千円、合計五百四十万六千円、これが収納課関係の本年度の予算でございます。

前年度に比較いたしまして約五万四千円、増になっております。

総務費のうち報償費四百五十八万二千円、これは納税

組合の奨励金でございます。

この奨励金は昭和四十二年度に納税組合を通じて納めていたいただいた市税に対して四十三年度予算をもつて交付する報償金でございます。

積算を申しますと総額で一億六千三百万三千円。これに対して四十九納税完納奨励金でございます。す。奨励金といたしましては四百四十五万八千円。それから組合長会議のとき記念品といたしましてひとり約五百円程度の記念品を差し上げております。これがいわゆる税と国民年金と国保とそれぞれ三つの組合長を合計いたします。それぞれ案分いたしましては、市税におきましては約百八十名に対して九万二千円。それから優良組合に対しては千五百円の記念品十五組合。それから

納税協力者、個人に対して、約千円の記念品
十人を見ておきます。二、合計が十二万四千円とな
っております。

次に賦課徴収費の報償費三十一万四千円でござい
ますが、前納報償金として三十万、二は納期前納付、年度
当初に一年分納めた場合に地方税法による報償金で
ございます。

その他出張徴収とか、私の方で地区別納税組合長会議を
いたします。際にその会場を借り上げたいております。
これに対して、一会場一千円、五百円というふうに借り
上げ料を支払いたいております。二はが一万四千円
それから、普通旅費徴収員による一般市内出張旅費
でございます。

次に需用費二十七万二千円、うち消耗品三万六千円

二つ中に収納課といった一まゝ七千五百円含まれてお
ります。これは徴収員が現在オートバムに乗つて
徴収に出ております。その関係上、雨着を支給して
いるといふことで一着千五百円、五人分を見込んであり
ます。印刷製本費が十六万六千円、中に収納課
関係といった一まゝ七万六千円、それから食料費
二万四千円は組合長会議における食料費、その他
でございます。

十二役務費の中の通信運搬費六十五万六千円
の中に、収納課関係が十五万六千円、それから広
告料が一萬二千円、これは市内の四社に付一まゝ、
年度末とか、その他時期におきまゝ一わける
公表広告とか、滞納整理広告等をお願いいたしま
して、記事として取り扱つてもらつております。

自衛隊関係う手数料 二万四千円、月二千円として
見ました。

十八節 備品購入費 一万六千円、二小は徴収員がオ
ートバイで滞納整理に出かける際にズボンがいた
むで、今年は一八分お願いいたうたいと考えてお
ります。

それから七五ページの三日国民年金事務費の八節
報償費八十万八千円、二小は国民年金組合の報
償費でござります。四十二年度に見込まれます。

税額が二千五百九十万、二小に対して一まうて国からう
三分の報酬がきます。七十七万三千円、二小か
う組合長に対して一まうて納税組合と同じように
一人五百円位う記念品、二小が四十二組合、二万一千
円 優良組合、個人が協力者、そういうものが

対一まゝ、そのやうに千五百円、千円、記念品を差し
上げたいと考えます。二が大体八千円、以上収納
課関係の予算でございます。よろしく御審議願
います。

副議長（西村真次君）午前9会議は二にして休憩と
いたします。

午前十一時五十四分

休憩

午後一時二十五分

再開

副議長（西村真次君）午後9出席議員数 十七名
休憩前に引き続き会議を申します。

（市民課長登壇）

市民課長（羽山房雄君）六二ページ徴税費のうち市民

課関係で計上いたしましては、賃金の百万円の中、二十九万二千円は固定資産カードの書きかえを本年必要といたしますので、二小に必要打賃金を計上いたしまして。

六三ページ九節「旅費」のうちにも、市民課関係の旅費を二万円お願いしてございます。

十一節「需用費」百二十六万三千円のうち、消耗品におきまして三十七万九千円、印刷製本費におきまして二十八万円、修繕費におきまして六万円、計六十七万三千円をお願いしてございます。

この修繕費の六万円は市民課の使用しております。計算器、アドックスというのが、昭和二十九年当時購入したものを持っておりますが、二小の修繕に充てるための費用でございします。

次に十三節の委託料七万五千円、これは計算係が使用してあります。電動計算器オリベツタイ、これは五台配置されてありますが、一台一万五千円、補修契約料でございます。

次に十九節の負担金百八十四万円、計上のうち、市民課関係で自衛隊全国協議会の負担金六万七千円と不動産登記事務協議会負担金九千円、さらに千葉県下市町村軽自動車事務職員共同設置負担金、これは四万円、お願いしてございます。二目の賦課徴収費の中に、十一節需用費、この中に印刷製本費として十六万六千円、ございます。が、このうち、督促状の印刷代を九万円、お願いしてございます。

次に十二節役務費の中に五十九万円、市民課関係の

通信課搬費を計上してございます。この通信課搬費は郵便料でございます。

二十三節の償還金利子及び割引料の三万円でございそうですが、これは市税還付金をお願いいたものでございます。以上申し上げましたものが事務上必要経費を盛っておりますが、前年とそう大した差はございませんので、申し添えます。

三項のうち籍住民登録費におきまして千二百二十万二千円お願いいたしました。

九節の旅費から御説明いたしますが、この中には実態調査の旅費を五万円お願いしてございます。

あとは普通旅費、研修旅費等を含めまして十二万円になります。

需用費以下負担金までは説明欄によろ御了

解をいただきますが、昨年と比較いたりますと、備品購入等が減っております。関係上、三万六千円が減になっております。

次に七五ページから、七六ページ、国民年金事務費を計上いたります。これも、市民課におきます事務的経費を需用費以下三節にわたりまして、計上いたります。また、昨年と比較しまして大差ございません。以上よろしく願います。

(選賃書記長 登壇)

選賃書記長(大嶋重義君) 六五ページ四項選賃費について御説明申し上げます。

本年度六百十二万六千円、五十七万四千円、増でございますが、これは人件費関係と本年度は、海区漁業調整委員の選挙と参議院の選挙がございますので、

その経費の関係が増でございます。

一日の選挙管理委員会費でございますが、人件費関係を除きますと、委員会の運営のための事務費でございます。前年度と大差ございませんので、説明欄によう御了承いただきたいと思います。

次に二日選挙啓発費でございますが、前年度に比較し、まして大幅の減額でございます。本年度二十三万でございますが、これは昨年まで啓発の重点地区として事業が本年度からはすさめた関係で減ったわけでございます。

この所発事業の内容を大別しますと、指導者関係の研修と、それから推進員というものを置いてありますので、それらの養成、それから主たる事業が話し合い関係に重点を置いておりますので、これを

なうということ、新しい有権者の啓発として、感想
より募集、同じく新有権者の座談会を行なうこ
と、それから明るく正しい選挙の推進大会を年に
一回行なうということが、啓発事業のおもな内容で
ございまして、こゝらに要する経費をそれぞれ費目に
応じまして、八節から十九節までに割り当てたわり
てでございます。その内容につきまして、説明欄によ
り、御了承いただきたいと思います。

次に三目の海区漁業調整委員の選挙でございます
が、この選挙は漁業者の選挙で、有権者の数も二
三百人程度でございまして、規模は小さいわけで
ございます。十一万八千円でございしますが、この選挙に
つきましても、投票所が四カ所、開票所が一カ所、
それに準備事務の経費が内容でございまして、執行

に必要なる事務費をその計上いたしたわけでございます。二いも大体付記欄で御了承いた
だきたいと思つたります。

次に六ページ四目参議院議員選挙費でございます。今回二百五万一千円を計上でござい
ます。二いは大きく大別いたしますと、準備事務に八十九万
一千円、投票事務に七十四万六千円、開票事務に二
十九万四千円、選挙啓発費用が十二万
円、二いいう内容で大別いたしたものでござい
ます。二いからも各費目ごとに仕分けを
して、二い節に計上いたしたわけでございますが、二
いうちおもなもので申し上げますと、一節で
ございしますが、投票管理者が二十人、一人千二百
円で二万四千円、開票はひとりでござい
ますが、深夜に

わたるというところが予想されますので、二日分でございます。
投票立会人は一人千円で六十人分。それから開票関係におきましては一応十五人を予定しております。これも深夜にわたることが予想されますので、二日分で三万円。次に職員手当でございます。

これは時間外手当でございます。投票事務関係で五十二万五千円。この選挙は大休日曜日に執行されるというふうに積算をいたしたわけでございます。投票事務に従事者の百九十人を予定しました。

開票関係の時間外勤務でございますが、これに要する人員が百五人としまして、これが二十二万円でございます。準備事務につきましては延三百時間としまして、これが九万円という内容でございます。

います。

七節の賃金につきましてはこの選挙に臨時用人を使いますので、四人分の賃金を計上いたしたわけでございます。

八節の報償費、これはおもに投票所、開票所に学校を使いますので、学校に使丁等にお茶の接待等でやっかいになるので、ここに二十五人分、三百円を計上いたしました。

旅費でございますが、普通旅費九万二千円の中には、またるものは広報とか入場券を役所、職員にくばってもらいますので、市内旅費六万九千円入っておりますが、おもしろいとおもなものでございます。

需用費でございますが、このうちで大きいものは、三十九万二千円の消耗品でございます。

この消耗品はポスター、公票掲示場を作る関係で
でございます。一枚約千五百円で、百五十枚分が二十
二万五千円。その他、器材費が五万五千円というものがま
たる消耗品の内容でございます。

食料費でございますが、これは投票、開票、委員会
のまかない費ということで仕分けいたしまして、投票所
におきます。従事者等の中食、茶菓代でございます
が、これは約五万八千円でございます。

開票関係の夕食でございますが、二万四千円。小
夜食が一萬二千円。あと委員会まかない費、三万四千
円というわけでございます。

委託料で五万円。明るく正しい選挙の推進事務の
委託とございますが、これは推進協議会という団体が
ございますので、これは参議院議員選挙について

は危険防止を主として委託を行ないたいという内容もございまして。

次に十五節の工事請負費でございますが、ホスターの揭示場でございますが、これを業者の設置と撤収を含めて五万円で購入し、やつてもらうという内容でございます。あと細かいものは付記で御了承いただきたいと思います。以上でございます。

(監査事務局長 登壇)

監査事務局長(館石勘治君) 七ページ監査委員費の御説明

を申し上げます。今年監査委員費は二百四十七万三千円を計上いたしましたが、これは前年より二十七万七千円の増額となっております。増加分はほとんど人件費でございます。それから監査事務を執行するにつきましての費用で旅費、需用費、備品等は前年と

ほぼ同額でございます。

それから当市の監査委員は全国・関東・千葉県市の監査委員協議会に加入しておる関係上、二府に対する負担金として四万一千円を計上いたしまして、以上で説明を終ります。

(福祉事務所長 登壇)

福祉事務所長(池田亮山君)　七三ページ三款民生費について御説明申し上げます。

一項一目の社会福祉総務費におきまして二千六百四十五万四千円、計上でございます。前年度と比較いたしまして二百二十三万六千円増でございます。

人件費を除きまして各節につきまして御説明申し上げます。たいと思います。

まず八節の報償費でございます。この節は戦没

着う慰霊祭並に敬老会に要します経費でございすが、本年は特に従来小學校運動会とともにやつておりました敬老会を最近う老人クラブが促成さいます関係とも、にらみ合せましてこれを各地区ごとく敬老会にいたしたいということでここに敬老会と協力謝礼といたしまして演進会等の催しをそれで行なつてみたい。かようお考え方で二万六千円を計上したわけでございます。

九節の旅費は前年と同様でございますが省略させていただきます。

十一節の需用費でございます。前年より若干の増加を見ておりますが、二の中消耗品が大万九千円ほど増となっておりますが、これは敬老会に要しますところの敬老記念品と申しますか、それを

含んでおります。

十三節の役務費でございます。これは通信運搬費並びに老人健康審査の手数料の六十一万月がそのおもなものでございます。三で老人健康審査の手数料は二十四万五千円ほど増加でございますが、これもまた老人クラブの設立等に相まって老人の健康審査の受診率が相当上回って参りまいたので、この程度の審査手数料が必要であろうということでございます。次は十三節の委託料でございます。これは民生委員さんや業務委託料でございます。これは民生協議会を通じてそれやうな民生委員さんに行わゆる手当的なものをお払いしているわけでございます。これは前年よりも、それやうな一人当り一千円増額いたしまして、たーまーたもつを計上してございます。

なおこの節の中から、従来忠霊塔の管理委託料がこの中に含まれておりますが、遺族会の補助金に合わせて組かえてございます。そのようなわけでこの年から五万円が減額されているわけでございます。そのほか母子福祉推進員の業務委託料として十万円計上してございます。

これは母子福祉推進員として市内三十人の推進員をお願いして母子家庭の相談に当たっておるわけでございます。この方たちの業務委託料でございます。

次の十四節、これは慰霊祭に要します物件の借り上げ、並びに身体障害者に対する福祉事業と申します。また、身体障害者のスポーツ大会の自動車借り上げ料、二万円、身体障害者のキャンプ訓練の物品借り上げ料、二万円等でございます。

次う十五節 工事請負費でございます。二は忠霊塔
のまわり。忠霊の氏名がきざんでございますが、本年
忠霊としてまつらいますもう氏名を追加彫刻して
参ります。経費でございます。

次う十九節 負担金補助及び交付金でございます。
総額におきまして四十二万七千円ほど増額になってお
ります。この中で特に申し上げたいのは、従来、この中でご
く少額、補助金をあつておつた団体が四団体あつた
わけでございます。

たとえば、言語障害児を持つ親の会とか、手足の不自
由な子を育てる親の会とか、その他あつたわけでございま
す。それ以外二万円、一万円という補助金でございます。
ので、二を組みかえましてございます。なお児童遊
園地の補助金も同じく組みかえてございます。

そういつたものを差し引きまして四十万七千円増でございます。特に増となりまして千円を申し上げました。大きいものでは老人クラブの補助金が四十四万円増となっております。これは一クラブに対して一万八千円づつ補助しているわけでございます。七十九クラブを見込んでございます。

次に扶助費でございます。七百八十七万六千円でございまして老人保護措置費が老人ホームに対する措置費でございます。百三十万三千円^{千五百}増でございます。それから身体障害者施設収容扶助費が三十二万三千円ほど増となっております。これは前年度までは、県が直接交付していたものであります。法律の改正によりまして市から館山市の住民が施設に収容される場合には市の支払いとなります。補助金で

交付になつてくる。三つうは組に改めまい。

次に二目の社会福祉施設費でございます。この中に
先ほど申しました少額の寄付金等が含まれておる
わけでございます。

それから十九節の負担金補助及び交付金でございます。
六十九万円に計上してございますが、心配ごと相談所
の補助金が八万円。これは前年同様でございます。

社会福祉協議会が三十一万円の増となっておりますが、こ
が先ほど申しました少額団体に対する補助金合計七
万円を含めまして、なお、県国から補助になるところ
の社会福祉協議会や運営費として補助金が入り
ます。二十二万二千円を含めまして、三三に六十一万円計
上してございます。

次の二十節貸し付け金でございます。

低所得者に対する一時貸し付け金でございまして、
これは前年と同様でございまして、

と大ページ二項一目 児童福祉総務費でございまして、
この目が青少年健全育成事業に要する経費で
ございまして、

八節の報償費 前年同様計上してございましてが、
各地区ごに行ないます体育大会の行事の報償金
それから審判その他講師への謝礼でございまして、
旅費も前年同様三万八千円でございまして、

次の需用費一万三千円ほど増加してございましてが、それ
以外若干ずつの増を見ております、

次の役務費 四万円、これは工事請負費に対し
ますところの建築確認手数料等、その他通信
運搬費でございまして、

十五節 工事請負費でございます。青年館の建設事業費が四百三十万円、これは相沢と石藤原等が一応予定しておるわけでございます。

それから児童遊園地の建設事業費として三十万計としてございます。これは新宿に児童遊園地を作ろうというところで計上してございます。

次に十八節の備品購入費でございますが、前年とほとんど同様でございます。

十九節の負担金補助及び交付金でございます。

これはまずスポーツグループの育成用具購入費として三十万円を計上してございます。これは現在グループとして活動しております富崎、剣道クラブ、那古、剣道クラブ、船形、早起き野球クラブ等、地域的にクラブを作っておりますので、その補助金を一団

に対しまして十万円を予定して計上してございます。
 次に相談員の連絡協議会補助金でございます。
 現在館山市には百六十名の青少年の相談員が設
 置してございます。その人たちの活動費でございます。
 六十四万円。前年度より四万円増加してございます。
 次にスポーツ少年団の用具購入費で五万円計上してござ
 います。これはスポーツ少年団が年々できて参ります。
 それに対する新しくできたものも対しまして一団について一
 万円づつ交付していただけてございます。
 さらにスポーツ少年団の育成費の補助金。三十五万円
 計上してございまして、一団に対しまして一万円。二十団
 を予定してございまして、なおスポーツ少年団一人に対して
 百円程度の補助金を育成補助として差上げたいと
 いうことでございます。

なお先ほど申しました次イ私設遊園地補助金五万月
を二二イ節に計上してございます。

次に二目児童措置費でございます。千七百十七万二千円
でございまして、これは私立保育園に対する保育園必
の措置費でございます。前年よりも総額で二百七
十三万四千円の増となっております。なお、その中に私
立保育園の保育料、現任訓練委託料として五万月を
前年と同様含めております。

三目、児童福祉施設費でございます。八百五十三
万五千円でございますが、これは公立四園の保育
園に対する経費でございます。

一節、報酬は園医の委託報酬でございます。
二節、賃金は保育園の給食等の臨時職員
の賃金でございます。

八節の報酬費は存目でございまして九節の旅費も
前年同様でございします。

十一節の需用費 三百六十六万五千円でございします。

こつ年にいわゆる園児に食べさせますもう 或いは園
児に使わしますところの保育教材等が含まれて
おるわけでございします。前年と比較いたしまして
三十七万五千円の増となっております。

次に十二節の役務費でございします。通信運搬費が
若干増加しておりますわけでございします。

次に十四節の使用料及び賃借料でございします。
九万五千円を計上してございします。

船形保育園の土地の借り上げ料、並びに自動車
借り上げ料でございしますが、これは園児の遠足
と申しますが、そういうものをその園で行な

いますので、自動車、借り上げ料を二万五千円見込んで
あります。

十五節工事請負費 三百五十三万三千円の中で、那古純
真保育園、園舎が老朽化して参ったことと合わせ
まして、いわゆる三々以下、子供を収容する施設
に改めたいということで、一部改築費を計上してござ
います。

次の十八節備品購入費でございますが、前年度同
様でございまして、~~四~~遊具購入費でございます。
十九節の負担金補助及び交付金でございますが、県
の社会福祉協議会に対する負担金並びに第六分科
会と申しまして、安房郡市の協議会でございます。
その負担金、それぞれ合わせまして二万五千円計上
してございます。

次に二項の生活保護費でございます。

一目の生活保護総務費で五百九十六万六千円でございます。

一節の報酬でございますが、これは生活保護の中の医療保護の保護申請が出て参りまゝな場合の保護の判定をしていただくために福祉事務所にお願ひしてございます。医師者の報酬でございます。毎週木曜日にきて内容審査をしていただいております。旅費、需用費、昨年同様、計上でございますので省略させていただきます。

十二節役務費、若干増加しております。審査手数料の増加がございます。

十八節備品購入費でございますが、これは保護係の保護台帳等を格納するキャビネット、そういったもの

の購入費 二万六千円でございます。

十九節の負担金補助及び交付金は二千円増でございますが、ほとんど前年と大差ございません。それ以外の研究会の負担金でございます。

次の扶助費でございます。これがいわゆる直接扶助等に使われます金額でございます。九千二百三十二万六千円でございます。内訳はそれぞれ付記に記載

してあります。その金の額でございますが、この中で特に目立ちますものを申し上げますと、生活扶助費におきまして六十三万三千円、ほんとう増で、医療扶助費におきまして六百一十七万四千円減でございます。その他は多分の増減でございます。大差ございませんので、説明を省略させていただきますと思います。

四項の災害救助費でございますが、各節ともそれ

ぞい存目でございます。

以上簡単に御説明申し上げました。よろしくお願ひいたします。

(衛生施設課長 登壇)

衛生施設課長(吉田耕一君)四款の衛生費を御説明申し上げます。

一項目の保健衛生業務費のうち、私どもの方に関係のある部面を御説明いたらないと思ひます。

賃金の臨時火葬夫、雇ひ上げてございますが、現在一名の火葬場、職員がおるわけでござりますが、休暇等によります臨時賃金でございます。

大体三十日程度を計上いたらない次第でございます。旅費、需用費等につきましては昨年度の実績というものを一応検討いたしまして計上いたらない次第でございます。

十五節の工事請負費でございますが、八十一万七千円、昨年度におきまして、お寺さんから火葬場の入口まで、間の道路の幅をいじったわけでございますが、今度あそこを舗装いたしまして、整備をして参りたい。その他原材料等につきましては、必要な道路に付随いたしまして、屋敷内の修繕等、必要経費を見込んでわけてございます。負担金うち、館山と三芳の隔離病舎組合の負担金でございますが、前年度四十万円を見ただけでございますが、幸いに患者も発生が少なかったというところから、今までの分担金によりまして、繰り越しもあるというところからいたしまして、一応本年度は削減いたしまして、十万円計上いたした次第でございます。

次に清掃費でございますが、昨年対比が五十万余り増になるわけでございますが、特に申し上げることもござ

いせんが過去一二年間、決算を中心としたしまゝにおろり節に必要経費を計上させていたのだいわけでございます。

実際、部面からいたしましても、人件費等に相当の額がふえておるといふようなことで、そうかわりございせんぞ、説明によりまして御了承いただきたい。このように考える次第でございます。

次にトんかい処理費でございます。トんかい処理費におきまして、千七十六万六千円をお願いするわけでございます。昨年対比、二百三十余万の減、このおもなる減は従来賃金で支払つておつたものが一部給料にかわつてきておるといふこと、賃金の減額が主たるものでございまして、現在まで作業品二十名で行なつて

おるわけでございますが、本年度賃金から給料に

かわりまゐた関係で、ここへ支払います。賃金とい
たうまゐては十六名分を計上いたすというところでござい
ます。二百三十余万円については、賃金へ移行する
ます。減になったわけでございます。

旅費、需用費、或いは役務費等につきましては、一応今
までの、実際の経費を検討いたしまして、必要経費
をここに計上にいたすのでございます。

なお十四節の使用料、及び賃借料でございますが、
昨年度夏季におきますところ、一般の自動車
借り上げをいたしまして、昨年度は五十万程度を
お願いしたわけでございますが、今度は新たに一台購
入をいたしたわけでございます。今回、それを
落として、一応二万程度の、本年年度の
運営をしていこうという考え方でお願いいたした次第

でございます。

次に工事請負費でございますが、六十五万でございますが、おなじみでございますが、現在、焼却場、東方にござい、ヨミ、捨て場、整地をいたしまして、何とか御迷惑を少なくするまいに、一日も早く現金な土地にいたらないと考えるまいに、本年度、それに見合わせる金額といたしまして、四十万程度を二ミに充てたいと考えるわけでございます。

その他、大きな排水路が市内に数箇所あるわけでございまして、そういうもの、清掃、請負工事を二十五万程度見込みまして、工事請負費といたしまして、この額をお願いしようというものでございます。

それから、次、備品購入費でございますが、自動車一台

これは先般お願いしてあるわけでございますが、この面によりまして先ほど賃借料の方を減額していくという考え方でございます。

又、三日月一尿処理費でございますが、まず賃金におきましては、一名のベキム同乗作業員に対する賃金、旅費におきましては必要経費六万三千円、需用費におきましても特に従来とかわった点はございませんで、現在一尿処理場を運搬していく上におきまして、必要な経費を計上いたした次第でございます。又、役務費九万二千円は説明欄によりまして御了承いただきたい。このように考えます。

それから委託料でございますが、昨年度当初におきまして十二万円を見たわけですが、ございしますが、その結果を見ずには済んだということから、本年度は半額

減を見ましても夏季の時点、その他で特別な施設、事故等、あるいは、場合により見込みましても、この程度をお願いしようというわけでございます。

十五節の工事請負費でございますが、現在の脱水管、ポンプでございますが、それが縦型式のポンプになっておるわけでございます。いろいろ脱水管関係の運搬作業、上から、横型にしないというところでございます。横型にしないという根拠は作業の能率、それから、脱水管、まず、取り上げます、ポンプの力等も相当いたむというふうな関係からいたしまして横型式の方が、その面についてはすぐれておるといふような観点から、今回四十五万円をお願いいたしまして横型にいたらない、このように考えるわけでございます。

その他特に説明申し上げる部分はございませんが、昨年

原材料費におきまして、散布床の御影石の碎石
でございますが、半かほどかえまして、年々少くすつ購
入いたしまして、予備をたくわえるというように考えて
おりまして、本年も何れある程度購入いたしまして、
碎石の入れかえ等に支障をきたさないようにいたし
たい。このように考える次第でございます。その他に
つきましては、この程度より経費を必要とするという
ことで、ミニに計上させていたが、いた次第でございます。
三項の上水道費でございますが、今回六千三百万円を、願
いしようというも、ござります。

この六千万円につきましては、十九節の負担金補助、
及び交付金でございますが、御案内の三市町村の
上水道組合への負担金で三千万円、これはたいてい
進捗状況を簡単に申し上げますと、当初の四億九

千五十万の主体事業費に對しまして大体六〇％、
比率でございます。——かゝるから、その中間過

程におきましてダムや岩盤の予期し得ない場所
が甚だというところでダムが中止をいたしましておたわ
けでございますが、当初の計画の六〇％程度が三月
十日まで了りてき高でございます。

その他に新しく設計変更に伴いますものによりまし
てうでき高はまだ、ゼロということになっておりまして
近くその線も決定し、新年度から事業も開始で
きるといふことになっております。

二十八節繰り出し金 三千三百万円、これは簡易水道
の特別会計へ繰り出し金、二百万円でございすが
これは西岬地区にございすも、それから宮城にこ
ごいます水道、おうおう平常を除きまして、夏季

ますが、減額補正でも御説明申し上げまうたように、一部の変更に伴います工事費の減額、一千万余を減額して一千六百十万余を繰りこめていただく結果になった次第でございます。新年度におきましても二千八百万程度の繰りこめをぜひお願いいたしまして、目的達成のために努力いたしたい。このように考える次第でございます。簡単でございますが、以上でございます。

副議長(西村真次君)暫時休憩いたします。

午後 二時二十八分 休憩

午後 二時四十八分 再開

副議長(西村真次君)休憩前に引き続き会議を開きます。

(保健衛生課長 登壇)

保健衛生課長(網島憲治君)ハ三ページをお開きいただき
たいと思います。

保健衛生総務費のうち十九節負担金補助及び
交付金、私どもが所管しておりますものの説明を申
し上げます。この負担金の中で百五十七万三千円が
増額になってゐるわけでございしますが、このおもしろな
昨日御審議いただきました館山保健所庁舎改築
費四十三年度分が百五十九万。館山市保健調査会十方
これは暮、補正で御決議いただきましたが、昨年度
の当初予算にはございせんので、内容的には私
どもが行ないます衛生関係の諸問題につきまして
医学的な説明を行ない住民の健康管理に万全
を期したい。そういうふうな助言的なことをして、

山形市議会
だく会でございます。

そう他昨年度もございまして母子衛生大会の負担金
が五万円減額になっております。

館山保健所後援会費、負担金が一万八千円増額で
ございまして、そう他は昨年と同様でございまして。

引き続きまして予防費について御説明申し上げます。
本年度六百九十六万三千円を希望いたします。もう
でございまして、私どもが主眼としております。現在が

衛生関係の諸行事の中で定期的な予防接種が
五種類、間接的なものは三種、その他に特に本年度

は、現在問題になっております。がん対策といった
まして、昨年度は四百人、検診数、かございませんで
一だけども、本年度は一千人予定をいたしております。
これは各部落にまわっていただきます。

それと結核予防法の結核の住民一般検診でござい
ますが、昨年度四〇％で七千五百人程度の受診に
なつたわけですが、本年度はこれを一万一千人に
いたしたいと思います。そのほか三才児
乳幼児、母子衛生等の予防を予定しております。
その関係費用といつても、かわりません。それ
らの事業をふやしたために需用費において大体七
万二千円が増え、その他に三万三千円、四千円
が増え、ございますけれども、もっとも大きく
なつております。十三節委託料の二百八十一
万二千円でございまして、昨年度に比較いた
しますと、六十六万円の増に
なつております。それは検診に要する費用でござ
います。

次に環境衛生費について説明申し上げます。

本年度二百十萬四千円をお願いしてあるわけでござ
います。これは昨年対比におきまして百四十萬八千円
の減を見ているわけでございす。このおもなるものは
昨年までありまして賃金職員が正規職員として
人件費の方に回っておりますので、それの減でございす。
需用費におきまして百八十七萬六千円をお願いしてある
わけでございす。これは大体消耗品におきまして
四十萬円の減。主たるものは薬剤費の關係でござ
います。

薬剤の關係につきまして本年は大体一般家
庭に對し、まして八十六萬五千円程度の薬剤散布を
いわゆる公共施設、学校等におきまして五十二萬五
千円程度、それから問題のゴミ捨て場でございす。
が本年度も若干は、どうしてやらなければならぬ。

りではないか。こういうふうに考えますので、その分といたしまゝ三十五万四千円程度を予定いたしております。
こゝは状況如何によりましては公共施設なり、部落の
共同防除にも差一向けたいとも考えております。
それらに要します備品購入費十七万計上してございま
すが、こゝはスイングフォックと申しまして、葉をまく
~~機械~~ 機械、こゝを一台、それから機械を運たいます、運搬
車、大万円をお願いいたいたい。このように考えます。
なお、こゝ中で食糧費を二万二千円計上してございま
す、こゝは私ども、そういう事業を行ないますので、やはり
部落で組織だったものがございまして、何をやるい
た、ましては効果があるわけでもございまして、
私どもが参りまして、部落的な協力がございまして、
仕事にきわめて効果が上らないわけでもございまして、

それらの組織作りは二十会場程度を予定いたしました。話し合いを持ちたい。このように考えております。以上でございます。

(商工観光課長登壇)

商工観光課長(山田俊康君) 労働賞について御説明申し上げます。

本年度お願いいたします額二百九十四万。昨年対比で九万七千円増となっております。

負担金補助及び交付金九十三万七千円、熊本地区労働者文化厚生福利厚生施設補助金、地区労働者を中心とした生活相談、労働講座、或いは研究会、体育大会とかいろいろあります。その補助金、昨年は七十万でありました。十万円減額いたしました。六十万、それと勤労者福祉協議会補助金というのがございます。

勤労者福祉協議会と申しますのは、労働金庫の事業の拡大とか、共済事業の拡大或いは住宅施策の強化、労働者の文化体育、親睦などにも後援しようといういろいろな活動をしております。協議会であります。特に本年度は住宅問題に重点を置いて、これを推進したいということでも二十万を新たにこの協議会に補助しようとするものがあります。十カ月減額になつてこちらに二十万ということでもあります。

館山市職業指導協議会、これは中学校卒業生の就職あっせん、学校の職業指導の先生方が中心になつて設けられております。協議会であります。

それに対して、市から補助五十万円。

安房雇用協議会、これは館山市の事業主が、館山市以外と、ところから雇用を促進しようということ。

設けらるゝてありますも、これに對しては、館山市負担分であり、あります。一万五千、安房地協同訓練所の補助金七万二千円、これは現在技能労働者が非常に不足してあり、まして實際に充ててありますところは、建築士会館におきまして、毎日曜日、安房郡下り特に建築大工さん、左官、そういった方たちを集めて指導を行なつてゐる機関であります。現在果の補助として生徒一人当り二千四百円というものが出ております。町村においても一人月百円、市においても市が生徒分一人百円、現在、市の生徒が六十人あります。この安房地協同訓練所の生徒総員は百六十人あります。これは七万二千円補助というふうにも出てあります。

貸し付け金二千四節と書いてあります。二千一節

に御訂正願いたいと思います。

三十一節貸し付け金 二百万円。昨年も同様に労働金庫に預託いたしまして労働者の福利厚生資金に活用いただきたいと思います。

非常に簡単でありますけれども労働費の説明を終ります。

(農業委員会事務局長登壇)

農業委員会事務局長(畠山治郎君) 農業委員会予算について御説明申し上げます。

まず旅費でございますが昨年と同額でございます。

又際費需用費、役務費も同額でございます。

十三節の委託料でございますが、これは果て要請に基づきまして水稻生産費調査委託料でございます。

どうしても、畠山市は三人委託者と設けてくれ。三という

要請がございます。昨年までは一人しか希望者が
ございましていたが、本年度三人確認いたしまして
ので、一人五千円、一万五千円を計上させていただきま
した。その他備品負担金につきましては、前年同様
でございます。よろしく願います。

(農林水産課長 登壇)

農林水産課長(伊藤幸太郎君) 農林関係につきましては
申し上げたいと思います。

九ページでございますが、農業総務費におきまして
本年度千三十九千円を計上でございますが、これは、
大体人件費と需用費等でございますので、説明
を省略させていただきます。

三目の農業振興費でございます。本年二百八十
九万二千円を計上でございますが、昨年対比で約百

八十万程度の減額になっておりますが、これは山本、安布屋の農業構造改善事業が終了に伴いますものでございます。

続いて九二ページいろいろと補助金、助成金等がございます。まずけれどもそのうち、おもなものにつきまして申し上げてみたいと思っておりますが、土地改良事業、利子補給金、三十六万七千円、これは構造改善事業によりまして、各農家の方が借り入れしております借入れ金に対します。利子補給でございます。

次に果樹振興の施設補助金として、二十万円で、これは本年度はじめてでございます。

市の果実協会の事業といたしまして、四十三年度に沼におきますところのびわりの出荷場の修改造策を行ないたいというところでございます。果樹振興の

一つといつてしまつて、それに対して二十万補助を差上げ、
 げて集荷の適正化を進めて参りたいというものでござります。

次に花弁振興給水事業補助金五十万とござりますが、
 これは西岬の坂井部落におきまして約十五町歩程度の
 の畑地にかんがい施設を行ないたいということと、その事
 業は約四百万程度かかりますので、それに対して五十万
 補助として差上げたい。これは花の集団化のため、
 事業でござります。農業振興費におきましては本
 年度特に新しいものといつては、以上でござります。
 ので以下は説明欄によりまして御了承いただきたい
 と考えております。

次の四目畜産業費本年、度千六十三万六千円、計上
 でございます。昨年対比七百八十二万三千円、増でござ

ますが、そのうち、おもなものといたしましては、本年度牧草地の造成をさうめたい。これは、神余畑に關係いたします。山林を開発いたしまして、目標といたしましては、五ヶ町歩程度を目標といたしまして、そこに放牧場を作りまして、牛の預託管理合わせまして、肉牛の飼育等を集団的に行なうめたい。それらを中心にいたしまして、畜産業費を計上いたしたものでございます。それにつきまして若干申し上げます。まず、農産房地区のたぐいまる申し上げました改良事業費といたしまして、第一期分四十三年度三十ヘクタールを目標に二百九十方五千円を委託料を計上してございます。その他九重地区並に正木地区七カ所に約十ヘクタールに及びます。小規模草地の事業費を予定しております。その金が一十九万五千円を見込んで委託料として

計上してございます。それから、岡山県乳牛共進会の委託料として二十万計上しておりますが、これは昨年に引き続きました本年度も乳牛の共進会を実施したいという事で二十万円の委託料を計上しております。それから、岡山県放牧場の仕事に關連いたしまして、草料の使用料及び賃借料におきまして一百万、草地の用地賃上げ料として存目ではございますが、これは先ほど申し上げました豊房地区におきます放牧場を共有地を借り上げまして放牧場を作りたいという計画でございますので、現在のところまだ価格の決定が行なわれておりませんので、一応存目程度計上したものでございます。

次に備品購入費におきまして六十一万五千円を計上いたしまして、これはやはり放牧場建設に伴う

費用でございまして、そのうち自動車^の購入費を六十
万計上してございします。これは小規模草地造成事業
の中で補助^の対象になる予定で計上してござい
ます。

次^の十九節でございしますが、そのうち飼料作物^の増産
対策補助金といたしまして、百五十万計上してござい
します。これは牧草^の増産対策^の一つといたしまして、県におきま
して五^の％、補助金^がございします。これは大体機械
器具購入費^の補助金でございします。

同じく草地効率促進補助^の二十五万、これは牧草地^ができ
ております。あとに、放牧草地^の管理^の効率化とは
かるために、たとえば、草刈り機とか、その他の機械
器具^の購入^に対して、県費^{でも}つて補助^をする
仕事でございします。以上が大体、本年^度の畜産

農業費のおもなものでございます。

次が農地費でございます。本年度七百十四万円の計上をございまして二百万余の増になつております。そのうちおもなものでございまして十九節に共同施行の補助金二百万円、それから団体営かんがい排水事業補助として二百二十六万を計上してございます。

最初、共同施行補助金といたしましては、滝、谷の農道改良事業費、ほか十三カ所の予定をいたしまして農道修改造修、或いは用排水路の改修、その他を予定いたしまして二百万円の計上でございます。

次の団体営のかんがい排水事業でございしますが、これは神戸地区の犬石に昨年、干果等に際しましては、水不足を生じましたので、巴川の水を利用いたしましてかんがい事業を行ないたいということですので、果におき

まゝでも内諾を得まゝで認定されておるようでございます。
うで、新年度新たにミニに二百三十万円の計上をいた
したのもござります。大体事業費といたしましては、
約千二百万円でござります。大石地区の約二十三ヘクタール
の水田の水を揚水したいという事業でございまして、さ
約二〇％程度を市の補助金として差上げたいという
予定でござります。

次の林業費でござりますが、三百三十万円の計上で
ござります。そのうち、特に申し上げたいのは、例年の
いろいろ問題になっております。松食の虫の問題でござ
います。本年度も引き続きまして、松食の虫退治を
やりたい。本年度の目標として、約千五百リュー
ベを目標にいたしまして、伐採、或いは薬品の散布
等を実施して参りたいという予定でござります。

それより十九節の中で造林補助金というまいて、
五十九万円を計上してございます。

これは造林の予定面積を三十五ヘクタールにおきまして、
杉、ひのき等の造林計画をいたすべく果ては補助
金を見込んでいただいております。

次に第三項というまいて、水産業費について申し上げ
たいと思いますが、本年度二千二百四十三万三千円を計上
てございます。八百四十四万三千円を増てでございます。
そういうふうなものを申し上げたいと思います。

十九節の沿岸漁業構造改善対策事業というまいて、
百四十五万六千円を計上いたしております。その仕事の
内容はまず、船形地区におきまして、魚礁の投入、富崎
地区におきます投石事業、これらを一定予定いたしま
して、船形、魚礁の総事業費が八十九万六千円、富崎

が五十六万円ということで百四十五万六千円の助成を行ないたい。これに對しましては、果並びに国市、それぞれ三分の一、それから市は事業費の一〇%を助成いたらないということでございます。

それから水産振興事業奨励金として十三万計上してございしますが、これは電探であるとか、或いは漁具の改良その他に對しまする助成でございします。補助率はごくわずかではございますが、一〇%程度を見込みまして十三万円計上してございます。

次に構造物改善の事業経費の近代化施設補助金として一千万円、これは船形港に新たに荷さばき場約一千平方メートルの荷さばき場を設置いたらないというところで、果その他とも折衝いたしまして大体内諾を得た状態でございまして、まだ事業費が確定しておりま

せんが、一応二千万円程度を見込めまして半額の
一千万円をここに計上いたしたわけでございます。自
後事業費の確定がございまして、場合によってはそれに
相応いたしまして追加等をいたしまして近代化
施設の助成を行なう参りたい。これはあくまでも漁
協合併に伴います事業の一環でもあり得るだけ
助成申し上げたいという考え方でございます。

次、漁村、青壮年、育成事業の補助金
でございますけれども、これは昨年にも実施してござい
ますが、本年度も引き続きわかれ岩のり、養殖の
研究グループがございまして、助成して研究を進めて
もらいたいという考え方で、県、市、地元、大体三分の一
ずつ補助金でございます。

次、漁港管理費は十五万四千円で特に申し上げる

点はございませんが、省察されていただきます。

次の漁港建設費七百三十二万五千円、百万程度が減でございます。

十五節の工事請負費におきまして百九十五万計上してございます。この内訳といいたまうれば見物漁港の防波堤の新設約十メートル、下原漁港のしゃんせつ事業、伊戸漁港の防波堤二十メートルの新設、香漁港の物揚げ場の上張り工事を予定しておりまして、総工費百九十五万を予定してございます。

それから次の十四節の負担金補助及び交付金におきまして五百三十五万円の計上してございます。これは果実等の仕事に対します。地え負担金でございます。

まず船形漁港の修築負担金におきまして、二百三十七万五千円、これは港内くしゃんせつ事業で事業費を千

九百万程度を予定してございます。その額一・五％
次の富崎漁港の修築負担金が百八十七万五千円、よ
は岩盤のくさく事業でございまして事業費千五百
万円を見込みまして一・五％の負担金。それから
最後の百万円でございまして、これは果樹事業で
ございまして防波堤のかさ上げ事業を予定しており
ます。物揚げ場の補修工事費約二百万を予定いた
—ましてその二分の一の負担金を計上したわけでござい
ます。以上が農林水産業費でございします。

(商工観光課長 登壇)

商工観光課長(山田俊康君)九八ページ商工費について御説
明申し上げます。

商工費総額で本年度三千五百四十二万五千円、前年と
比較いたしまして一千万減という数字が現われております。

けれども、大きなものは商工費中、中小企業への預託金
昨年度は二千万でありまして一年も経て見まわした結果、
もう一つ国民金融公庫、館山支店ができたということも
原因いたしまして二千万の預託をしないでも千五百万
の預託で十分やっています。従前二千万の三倍までだっ
たものを千五百万の五倍まで貸し出してするということ
になりまして千五百万程度貸し出してきている見込が
ありますので、預託金を五百万減じな。

それから債務負担行為でお願いいたしまして、あの購入
費、四百三十万というものが、ここから抜けております。

そのほか、民謡作成、二百万等の予算でありまして、そう
いった関係で千五十八万二千円という減額であります。
実質的には商工費においても増額しているというところで
あります。

商工業振興費千八百五十万 細かいところは省略させていた
 びきまう十九節でありますけれども商工会議所補
 助金二百万円 商工会議所の運賃補助 昨年同様
 百万円 小規模事業の補助金八十万円 小規模事
 業と申しますのは商工会議所で税務相談とか企業
 の経費相談等に携っております館山中小企業相談
 所というふうに銘打って商工会議所の中でござい
 ますもありません。これは四十二年度の場合を申しま
 すと、国の補助金が百二十五万、県が百二十五万、市で八
 十万というふうな金額でそれを運賃としております。
 本年度も同じような形態で市が八十万、これに補助して
 運賃をはかろうといういもありません。

なお、商店街診断の補助金 十万、商店の従業員のリ
 レクリエーションに十方昨年と同様に合計二百万というこ

あります。

商販聯合会の補助金、昨年は三十万でありました。今年には三十万。特に今年は各商販街のあり方等について大いに研究して参りたいというふうなことで、そのための補助金として計上いたしております。

次にたばこ木工、鉄工等は昨年と同様でございます。田角、商工業協同組合の補助金、これはうちわの組合でありますけれども特に販路の拡張という意味で千葉県、或いは関東地方だけでなく全国的にまた遠くは南支那方面までも販路を拡大したいということで計画中であります。特に十万円お願ひいた次第であります。

千葉県経営合理化協会、補助金というのが七万五千円新たに出ております。

中小企業の経営合理化という問題で協会ができて
おりまして、県を一つづつ団体として安房支部ができて
これを各市町村が少くすつ持ち寄り支部の運営に
当っております。館山市がこの協会に対する補助
として七万五千元をお願いしたい。

それから補償及び補てん及び賠償金、預託融資の
補てん金、毎季三月になりますと、この補正をお願い
していただいておりますが、本年は歳入にも今まで補
てんいたしましてはもうが、取ってくるものを見込みま
す。歳出の方にも、これだけお願いした次第でございます。
続いて観光費でありますけれども、千六十一万一千円、
四百四十五万減というところであります。先ほども申し
上げましたように観光費の中で実質的に増額になら
いる。むしろ購入費、四百三十万、北条海岸のよし、本年

度計画いたしましたもう七十本、一本六万円、四百二十万、昭和四十四年度、払いてこれを実施したいというところで計画しております。そして新しい歌、民謡、二百万が減になつております。そういう関係で四百四十万減してもなおかつ増額になつてゐるというところであります。

賃金関係から申しますと、三百三十八万五千円、監視塔の監視員が三十一人で千百円、五十日分を見込んでおります。監視船の船頭千五百円、三人分五十日、休憩所の監視に八百円で十二人分、清掃人夫七百五十円、十六日分、キャンプ対策の賃金として千三百円で五人分見込んでおります。キャンプ対策は昨年の六月議会でも請願が採択されて、二月の全員協議会るとき、市長からも申し上げましたように、キャンプは本年度廃止というところで踏み切つております。初年度でもありますので、特に力と

入してキャンプにきます。人たちに指導を強化して参りたい。そういうふうを考えまして従前キャンプ関係の費用といったしまして八十八万前後かかっておりまして、これをこのキャンプ対策費金三十二万五千円と案内標識の関係十数万、それから消耗品の中に組み込んでおります。標識関係があります。六十二万五千、少く大量とは思いますが、投入いたしまして完全に来年、今年と完全に館山市では海岸キャンプができないか、ということ徹底させなく、このようにお願いいたすのであります。続きまして、需用費関係は昨年と比較しますと相当減になっておりますけれども、先ほど申し上げましたように、むしろ購入代金が需用費に計上されていたためのものであります。

役務費関係でも減になっておりますけれども、東京の国

電に毎年着に車内掛を実施してありますけれども、二、三を
取りやめる。取りやめるけれども、国鉄とタイアップとして国鉄
の車両の中に額入りでいろいろ出ているものがあります。
その額入りの中に館山市のパンフレットをおさめ、もうと
いう大体目鼻がつかまらなくて、車内掛をやめるという
ことで多少減ります。

委託料、海岸、そして植栽管理委託料、百二十万出ておきま
す。これは九州から運びます。そして運搬、植栽管理を一切を
委託しようというものであります。

運送費、賃、或いは荷揚げ、客土費、クレーン、職人、人夫
肥料、植栽管理用、用品、それから一年にわたります。
管理人、夫賃等を含めて、百二十万円、お願いします。

運賃がクレーン車を使って輸送いたしますので、クレーン車
の使用、その他を入れます。五十九万五千円ほどあります。

養蚕費が九万、職人が六万、人夫十二万、肥料その他、管理入夫等で残額であります。

監視船が六十五万といいますが、従前とおりのもうござい
ます。本年も海岸監視のために監視船とお願ひして
やつて、六十日間で一隻、船油とも十三万という計
算でございます。

工事請負費が九十三万八千円、おしの給水施設として二十万、
仮設休憩所の設置費として十四万、シャワー休憩所
電気工事、監視塔の取り付け工事、二十八万八千円、
海水浴場管理事務所設置五万、これはキャンプ管理
事務所が不必要になりますので、それとそのまま海
水浴場管理事務所として転用したいというところで組
み立て式もありますので、五万でございます。

海岸便所、四方、これも従前キャンプで使っており、たも

のを海洋に配置して利用してというとするものであります。電気工事五万、案内標識が一応十数万となっております。

負担金補助及び交付金 百六十一万三千円、昨年と大体同様であります。

観光協会の補助五十万、観光祭六十万、観光の宣伝キャンペーンは三十万、海水浴対策等負担金 三万七千円出ておりますが、これは海水浴の監視員、それからキャンプ対策の監視員等に傷害保険を掛けようという事で、予算化をお願いいた次第であります。特に監視塔の監視員は水中

にもぐっていろいろ救出作業をやる危険も伴いますし、キャンプ対策につきましても、夜間も少しおついでにただこうというふうなことを考えております。これも危険が伴いますので、一応傷害保険を掛けたい。千四百円で済

大人分を計上いたします。以上であります。
副議長(西村真次君)暫時休憩いたします。

午後三時三十分

休憩

午後四時三十分

再開

副議長(西村真次君)休憩前に引き続き会議を開きます。

(土木課長登壇)

土木課長(飯田治男君)八款土木費について御説明申し上げます。

一目土木総務費千六百三十六千円、この中には建築課
り分も含まれています。前年と大差ございません
で付記によります御了承をお願いします。

十九節の負担金補助及び交付金、これも前年同様計

上げてございますが、よろしく願っています。

二項 道路橋梁費、一目 道路橋梁総務費も前年と大
差でございませんが、一応付記によって御了承を願いた
いと思っています。

二目 道路維持費 千九百五十三万八千円について御説明申
し上げます。

七節 賃金は道路維持補修、常用人夫延二千百十
二人分の賃金が計上されております。

十五節 工事請負費 二小は道路維持補修に関する
工事請負費というところでおもなるものは、現溝路肩
の舗装、補修等、工事請負費が計上されており
ます。

十六節 原材料費、道路維持補修用、資材費 碎
石等一万リートその他、コンクリート管、セメント、砂、

砂利、木材等、材料費でございます。

次に三目道路新設改良費、千六百六十五万一千円について御説明申し上げます。

道路改良といひまして、大路線、延長で約九百五十メートルを本年年度において拡幅しようというものでございます。その他、舗装といひまして、全部で七路線、延長千三百三十一メートル、面積五千四百六平方メートルを舗装するよう計画しております。

二つらの費用が各節に計上してございますので、節の説明は省略させていただきます。

十九節、負担金補助及び交付金について御説明申し上げます。

県道の改良工事負担金として三百万、これは前年度と同額でございます。

その他通学路に関係し、交通安全施設を整備、及び踏み切り道、構造改善等に関する緊急措置法により、まして、房総西線、ウダダ、踏み切り三、六メートルの幅、ものを六メートルに拡張する費用、負担金、百三十三万が計上されております。

四目、用悪水路費、六十六万五千円、これは、前年度に引き続き、まして、昭用水路、約八メートル、改修と新しく、笠石地内に、ございます。現在、海員学校の汚水が流れて、く、末端の汚水路を、百十五メートル改良するもので、ございます。

五目、橋梁維持費、百三十五万、円については、笠名に、ございます。大賀橋、その他、四橋、の補修を行なう費用で、ございます。それらの費用が、各節に、計上されて、おります。つて、各節、の説明は、省略させていただきます。

次に大目橋梁新設改良費六百九十八万五千円について御説明申し上げます。

これは正木市道稲線が腰越地内にございますが箱橋が老朽化いたしまして現在通行不能の状態で二トンの制限がござりますのでこれを幅五メートル延長二十八メートルで永久橋にのけなおすもござります。そうして取り付け道路百二十八メートルも合わせて改良するもござります。これは費用が各節に計上してござりますので、各節の説明は省略させていただきます。

三項、河川費について御説明申し上げます。

十五節、工事請負費四十八万。これは坂田地内にございます坂田川を約六十メートルにわたって改良する費用でござります。

四項港務費について御説明申し上げます。

一、目港務管理費に四百十八万八千円。これは館山校橋
北条校橋那古校橋をそれぞれ四十五メートル三十一メートル
三十一メートルの長さについてけた。及びなら木の補修を
行なう費用でございす。二、はらう費用が各節に
計上してございす。

十九節負担金補助及び交付金。これは館山港の港
内うしゅんせつ工事にについて負担金でございまして
事業費五百万円について二分の一、二百五十万円を計上
いたしまして。

第五項都市計画費。一、目都市計画終務費五百
二十三万七千円について御説明申し上げます。

十三節委託料二百万円。これは四十二年年度で二、六都市計
画の基礎調査を終りまして、市街地について都市

計画、街路網、計画と用途地域、すなわち住居
商業、工業等、地域をきめますことを専門家に委
託する費用でございます。

次に二目街路事業費千百三十八万四千円については、前
年度に引き続きまして市道神明町停車場線の
改良工事約六十五メートルその他舗装工事といしま
しては、前年度に改良した一キロも合わせて今年
改良した分も含めまして一応本年度に舗装した一
帯だと思います。その他北条那古線、北条、湊地先で
市役所より前から焼却場の方へいく道路でございます
本年度に引き続きまして約四百メートル舗装しよう
とするものもございます。二つ、費用は各節に計上
してございますので、説明は省かせていただきます。
十九節の負担金補助及び交付金については、前年度

に引き続きまして海岸道路を果で都市計画事業
として改良工事を行なうております。事業費一千万
に及びてその四分の一二百五十万をここに計上いたしまして
三目都市下水路費百八十万、これは四十二年度に引き
続きまして三軒町の排水路約八十メートルを那古排
水路約百四十メートルを改良する費用でございます。
次に四目公園費について御説明申し上げます。
千一百万四千円、この中にはくじく園の造成事業費
といまして千百五十万が含まれております。

公園整備といましては城山公園、北条海岸公園に
苑路を整備する。神島公園に便所を新設する。
那古山公園にあずまやを新設いたします。

中村児童公園に回廊のつくがたいふいたみまいなり。
さくをほどこす。こしらが、一応公園整備の方で見てあ

る事業でございます。その他くじく園、造成事業

は城山の前幼稚園の方、約五百平方メートルのところ
に外周約三百メートルをフェンスにまわすか、その中に
くじくを放し飼いにしようという計画でございます。
大体くじくを大十羽放し飼いにする計画でございます。
これに伴い、まわすくじくの鳥舎及び管理人の事務所
も合わせて作るようになります。

これらの費用が各節に計上してございます。

十九節負担金補助及び交付金について御説明申し
上げます。

これは国定公園の整備の負担金といったもので、百五十
万。これは休暇村の整備事業でございます。事業
費四百五十万の三分の一、北条海岸のグリーンベルトの造成
工事、事業費百万円の二分の一、五十万を計上してござい

ます。以上土木費について御説明申し上げる。そのほか債務負担行為といつて、橋梁新設改良工事として長瀬賀地内、三福寺橋、こどもだいの老朽いたしまつて危険な状態にあります。幅四メートル、長さ三十四メートルで鉄筋コンクリートの永久橋にかけかえたいと思つております。

都市計画街路事業といつて、北条港線、これは北条、千葉銀行から海岸に於ける道路でございますが、だいぶ舗装も破損しております。約三百四十メートルの間、五インチのオールカバで舗装修理を行ないたいと思つております。その他、船形館、花線、これは正木地区で、中、前でございますが、現在でございます。中央部を除去して、舗装しようとするものでございます。以上土木費につきまして御説明申し上げます。

(消防本部次長 登壇)

消防本部次長(岩田実君) 一ニページ第九款消防費について御説明申し上げます。

総額六千六百十三万七千円でございます。前年度と比較いたしまして七百七万三千円の増となっております。この内訳は消防施設費といたしまして昨年度と比較いたしまして七個の貯水槽、増設約二百五十万円、その他給与改定による増額となっておりますわけでございます。

一目の常備消防費でございますが、人件費、少額のもの、省略させていただきます。九節の旅費で三十九万八千円計上させていたんですが、これは昨年度と比較いたしまして、十八万二千円減でございます。これは昨年度の実績をもとに計上させていたんですが、

十節の実際費でございますが、十万円・昨年度と比較いたしまして三万円増となっております。御承知のように昨年の五月消防長が選任さしまして、国果等の渉外用務も増加したわけでございまして、その関係上、三万円増を計上いたしました。

十一節の需用費でございますが、二百九万七千円でございます。前年度と比較いたしまして、三十三万八千円の増でございます。こゝうち消耗品費として二十万九千円の増でございます。

昨年の実績をもとにいたしまして、ふやしていただき、燃料費は二万五千円の増、食糧料費は三万二千円の減となっております。

印刷製本費・光熱水費等は、それより昨年度の実績をもとにいたしまして、

修繕料は二月増でございまして、これは突発的な事故を考慮しない、今までも実績をもとにした修繕料でございします。

十二節、役務費でございします。通信運搬費は一月増で実績をもとにしたものでございします。

手数料保険料等は車の保険の期間上若干の増減となります。

十四節、使用料及び賃借料は昨年とほとんど同様でございします。

十五節、工事請負費は二月増でございしますが、これは消防署の望楼が台風時になりますと大へん雨が漏るものでございまして、その修理費として計上させていたばかりです。

十六節、原材料費は昨年度と同様でございします。

十八節備品購入費百七十五万八千円でございすか。これは昨年度と比較いたしまして十万七千円の減でございす。これは定期的に職員に貸与いたします。被服類約八十万円。ホスその他消防器具類。二万も約八十万。付属整備工場。工具類十二万。この購入を予定いたしております。

十九節。負担金補助及び交付金でございすか。これは昨年度とはほとんど同様でございす。ただ県自動車整備振興会会費でございすか。一万六千円。これは三年ほど前から入会を勧誘されておられた。ございすか。車検。その他。入会。の方が運賃上よろしい。ございまして。本年も新たに入会金として一万円。月五百円の会費。いたしまして。年六千円。合。め。まして。一万六千円を新たに計上されていただきた。

二日、非常備消防費でございしますが、報酬とい
しまゝは過日御審議いただきまゝ、非常勤の取
負の報酬がアップにまゝ、四十万三千円ほど
増となっております。

九節の旅費でございしますが、八十四万四千円、これは十
一万二千円の減となっております。このうち費用弁
償等は、その年々火災発生件数、或いは気象等
によつて増減があるわけでございしますが、今までが平
均火災発生件数を基準にいたしまして、ミニに
八十四万四千円計上させていただきまして、

十一節の需用費でございしますが、これは昨年度
より、四万四千円の減でございします。

修繕料で、昨年度より十五万五千円ほど減になつてお
ります。昨年度下町の消防車が大修理をいたし

まゝにたゞて、本年はその経費が浮いたわけでございます。総体的には昨年より多少の増額になっております。十八節の備品購入費でございますが、百七十九万六千円でございます。まして昨年より三十四万九千円の減となっております。昨年度は消防団員に定期的に貸与いたします。消防団員の冬服があったのでございますが、今年度盛夏服の支給期に当っております。二百二十万六千円。その他、ス、刺子等も購入でございます。

十九節負担金補助及び交付金でございますが、百五十二万円で前年度より四十二万二千円の増となっております。これは政令の改正によりまして、支那基金に納付いたします。金がふえまして九十一万二千円。これは四十二年度の現計予算と同額でございます。なお、果の方は昨年度と同く十五万九千円でございます。

います。

なお消防協会、館山支部交付金といった一まとめで昨年
度より五万円増の四十五万円を計上させていただい
まいた。

三目、消防施設費でございますが、十五節の工事費
負費として有蓋野水池二カ所、これは設置場所は
北条と大賀を予定しております。

それから無蓋でございますが、大へん申しわけござい
ませんが、二二個とございまして、八個の誤まりでござ
いますので、御訂正のほどをお願い申し上げます。

無蓋野水池八個の位置でございますが、八幡、政田、
大石、長岡、古茂口、五田二、館山小学校前、二の
ハカ所、川止めは竹原でございます。

サイレンの取り付け場所は川右でございます。

詰所増築工事大石火の見の新設は畑でございます。

十八節の備品購入費でございますが、二百九十七万でございますが、ポンプ車一台、これは昨年、九月に債務負担行為として議決したものでございまして、すでに消防車は船形、堂の下に配置されておるものでございまして、積載車一台、これは豊房の作石でございまして、終戦直後に購入した、また三輪車が非常に老朽しております。これは小型動力ポンプを購入いたしました。そして積載車に乗せようというものでございます。

なお、可搬ポンプ二台はただいま申し上げました作石と饅頭、野の稻でございます。これも今まで可搬ポンプがあまりございまして、使用に耐えられない状況でございます。今、同購入を予定しておるものでございます。以上、簡単でございますが、御説明を終わります。

（教育委員会庶務課長 登壇）

。教育委員会庶務課長（千場伊右エ門君）教育費について御説明申し上げます。

教育費本年度、予算額は二億五千八百四十五万六千円で、昨年度より五百四十八万二千円、減であります。

まず第一項の教育総務費であります。児童、生徒の体位向上のために給食施設の設置についてはその必要性が叫ばれております。こゝにいたしまして給食センターの調査費といつても、委員会費、委員の旅費で五万円、事務局費の旅費で三万円、需用費において二万円、合計十万円を計上いたしております。また予算の効率を高めるとともに各学校の教材、教具、資料の調整をはかるとともにその利用度を高めるといふ目的のもとに昨年度に引き続き本年度も資料センターを整備するため、

七十万円を計上しました。

その内訳は十一節の需用費において十五万円、十二節の役務費において六千円、十三節の委託料で四万五千円、十八節の備品購入費で四十九万八千円となっております。その他学級経営、各種指導研究会、実技講習会、各教科部門別研究会の講師謝礼として八節の報償費で十萬五千円、それから特殊学級、言語治療学級入級のたより判別調査、焦点カリキュラム編成の委託料といった一まゝ十三節の委託料で九万円を計上いたしました。次に第三項の小学校費、これは昨年と比較いたしまして五百十万六千円の増であります。

まず七節の賃金でございますが、昨年度三百四十五万一千円が百三十二万七千円と二百十二万四千円が減っておりますが、これは給食調理員、学校事務補助者、大工等

の本採用に伴うところの給料へり移行でございまして、
 その他おもなものをあげますと、賃金関係で、学校の
 宿日直代行員関係、こゝ関係が賃金で文十三万五
 千円、それから職員手当のところでもやはり宿日直代行
 員の手当として八万二千円をお願いいたしまして、

需用費におきまして二百二十五万一千円の増でございま
 す。そのおもなるものは、修繕料、百八十五万七千
 円、増額でございまして、

次に十八節、備品購入費におきましては、机、腰掛、備品
 年度を過ぎたものが多く補給を要する現状でありま
 すので、本年度七十万円を計上いたしまして、これを購入す
 ることになってまいりました。

次は一ニ、ページ教育振興費でございしますが、まず、十
 三節、委託料、一十萬円でありましたが、昨年度は、三、

現場研究委託をお願いいたしてございすが、非常に熱意ある研究をなし、効果も上げました。本年は三人を五人に増員し、十万円を計上いた次第でございす。また十八節の備品購入費において、これは昭和四十二年度から文部省において教材基準が作られました。十回に二回を整備するということで、三百八十万円をお願いいたしました。

二十節の扶助費、これは昨年度百七十五万四千円、今年百三十七万三千円、五十八万一千円が減でございすが、これは補正予算のときも申し上げましたように、生徒数の減少、そういう関係で減となったわけでございす。三目の学校建築費、十五節の工事請負費、これは館形小学校の用務員室、宿直室を改築しまして、環境整備をすることになったものでございす。

次に三項のうち学校費でございますが、昨年度と比較しまして二千八百九十九万五千円の増であります。

まず、一目の学校管理費でございますが、需用費において二百一十六万円の増でございますが、そのおもなものは学校プール、珪藻土等、その他薬品の関係において四万一千円、修繕料、百三十九万二千円の増額でございます。

十八節 備品購入費でございますが、今年も机、腰掛、購入費としまして八十万円を計上いたしまして、生徒の体位伸張等に対処する措置を取った次第でございます。次に教育振興費ですが、九節の旅費中、中学校の果体育大会参加の旅費として三十万円をお願いいたしまして、これは昨年までは小中体連への補助金で処理して参ったものでございますが、四十

三年度からは委員会において二小を掌握して実施して行くことでありまして、出場選手の旅費でございます。

次に十三節、委託料でございます。これは小・中学校と同様に二人を四人に増加した次第でございます。

十八節、備品購入費、教材費において二百五十万円をお願いし、小・中学校合計で六百三十万となります。

これは昨年と両方比較しますと、四十七万円の増となっております。

一・二・四ページ、学校建設費であります。四十二年度、房南中学校の校舎改築工事の明許終了越しをいたしたのも、一・四・六・六二平方メートルに引き続き、本年度二・九七平方メートルを改築いたします。その他、豊房の校長室、四中体育倉庫、休

育館の便所、合わせまして四千八百三十三万八千円と相なります。

次に高等学校費でございますが、使用料及び賃借料四万六千円、これは国有地三六三・六平方メートル、それから私有地塩蔵寺、分でございますが、約七〇平方メートルの賃借料でございます。

寄付金の二百七十八万二千円、これは館山高校の給食室、工事費の地元負担金でありまして、館山市が百六十六万九千円、各房郡町村が百十一万二千円を寄付するものであります。この百十一万二千円は歳入において処置してございます。

次に幼稚園費でございますが、本年度二千五百八万九千円でございまして、二百三十九万七千円の増であります。本年度は館形、那古、西岬の三年制を

取り入れます。本年人件費の増額は昨年と比較して二百十五万九千円であります。

また需用費においては、二十二万円、備品購入費においては、二十一万七千円が増となっております。

次は一大ページの債務負担行為の關係であります。が債務負担行為に北条小学校の建設委託料でございまして、用地取得については、開発公社において着々進行し、四十三年度には埋め立ても終了する予定であります。で建築設計を専門家に委託し、また次年度以降の建築に取りかかろうと考へ、まして設計費といつても、八百七十五万円をお願いした次第でございます。よろしく願ひいたします。

(社会教育課長 登壇)

・社会教育課長(源間利一君) 二大ページ大項社会教育費

につきまして御説明申し上げます。

本年度八千八百六十三万五千円と相対しております。
うち市民センター関係費七千五百十五万を差し引き
まいたあと千三百四十八万五千円について御説明申し上げます。

一 目社会教育総務費でございますが、前年度に比較しまして百九十五万一千円増というところで九百八十二万九千円を計上いたしまして、そのうちおもなものは一節報酬におきまして社会教育委員の年報酬額八千円の二十人分というところで十六万円、文化財審議委員の報酬年額三千万円、四万五千円、なお二節、三節、四節につきましては略させていただきますが、三節の職員手当の兼務手当でございますが、これにつきまゝは従来公民館の分館、副館長十名が

学校長兼務、分館書記が九名、教頭兼務というようは
関係から、兼務手当に計上いたします。関係で九万五千
円を計上したわけでございます。

七節につきましては、昨年とはとにかくわりとございませんが、
省察いたします。

八節、報償費でございますが、これにつきましては、公民
館活動等を中心に進めて参ります。成人教育、
青少年教育、さらに家庭教育、学級、加えて私どもが
社会教育、関係団体というところで、行なわれます。
青年団体、婦人団体、あるいは文化、文化財関係、さらに
子供会関係の指導者、研修にかかります。報酬として
七十五万四千円を計上いたします。

次に一三八ページ、旅費でございますが、昨年より若
干増を計上してございますが、内容につきましては

同様でございますが、省略させていただきます。

十一節 需用費でございますが、うち消耗品について十八万一千円計上しております。

成人学校五千円、家庭教育学級関係五万六千円、成人式記念品代関係で十二万計十八万一千円計上しております。その他は昨年とほぼ同額でございます。

十二節は省略いたします。

十三節委託料でございますが、鶴山市文化財団体保護協カに二十九万円を計上しております。

十四節省略いたします。

十九節、負担金補助及び交付金でございますが、

昨年の二十七万三千円、二千円の増ということで二十七万五千円を計上いたしております。

うち、文化財保護協会補助金三万月を計上いたして
あります。それにつきまゝでは、文化財所有者にかかり
ます。補助金を計上いたしたわけでありまゝですが、な
まにまゝ文化財所有者及び文化財審議委員からこの
方面の学識経験者相つといまゝで、館山市文化財
保護協会が発足を見まゝたゞ、その方の事業を
にらみ合わせて補助金三万月を計上いたしてあり
ます。

次に公民館費、昨年に比べまゝで二十七万三千月、増とい
うことで百三十一万七千月を計上いたしてあります。

そのおもなものを申し上げますと、報酬関係で公民館
関係の職員報酬を四十五万計上いたしてござります。
なお賃金でございますが、昨年に比べ分館の監視人一
名であつたところに本年さらに分館監視人一名を計上

しよりた関係が二十五万一千円となっております。

以下昨年とほぼ同様でございますが、省略させて
いただきます。

三目図書館費 昨年に比しまして六千円、減額とい
ことで二百十五万円計上いたしておりますが、七節
の賃金ところで昨年臨時用人賃金として
二名分を計上いたしたわけでございしますが、本年はう
ち一名が一般職になるということで実質的には二十
六万円相当が事業関係の方で増額というふうな
見ておるわけでございます。

十一節需用費のうち消耗品費でございしますが
二十一万二千円計上してございします。

事務用品関係が八千円、館内整備関係で五万
円、図書整備関係で十五万四千円となっております。

光熱水費につきましては電気関係で十五万六千円、水道関係で八千円と相なっております。

役務費、委託料につきましては昨年同様でございますので省略させていただきます。

十五節、工事請負費、図書館、補修工事二十二万がおもなものでございます。

十八節、昨年同様でございます。略させていただきます。

十九節も昨年同様でございます。

四目、婦人会館費でございますが、昨年に比べまして九千円減ということですが十八万九千円、内容につきましては昨年とはほぼ同様でございます。説明欄で略させていただきます。

一三四ページ、項、保健体育費に移らせていただきます。と申します。

一目の保健体育総務費でございますが、昨年に比べまして二百六十八万二千円増ということと、本年は四百三十七万一千円を計上いたしております。

そうおもなものを申し上げますと、一節、報酬で体育指導委員の報酬でございますが、年額一万二千円十五名分ということで、十八万円計上いたしております。十九節、負担金、補助及び交付金でございますが、二百三十一万三千円を計上いたしております。

内訳を申し上げますと、熊山市体育協会補助金ということと、二百七万八千円、さらにこの内訳を申し上げますと、当市の体育協会が、果体育協会に参加しております関係上、その負担金として七千円、体育協会自身の各郡レベルアップ並びに各種大会参加ということと、八十一万一千円、さらに柔道、剣道、水泳にわたります。

振興対策費といった一ヶ月で二百二十六万円 合計二百七十八万円を計上いたしております。

次に安房泳法会補助金でございますが従来二ヶ月算につきまゝでは観光費に計上されておたわけてあります。が、安房泳法会が館山に伝やりまするを来月の泳法の伝承というところが一つとなおシーズンにつきまゝでは一般市民を対象にいた一ヶ月の初心者指導を何回か事業として持っております。第三といった一ヶ月一それらの集約の形におきまゝ一鏡と浦横断遠泳大会を持てゐるというふうなことから、また社会体育や関係団体ということから本年保健体育総務費の中で三ヶ月補助金を計上いたわけてございます。

次に安房地方体育指導委員会連絡協議会負担金と右市町村に体育指導委員がござります。

それらう、連絡協議会が結成されております。その負担金五千円を計上いたしまして。

関東ブロック高校剣道大会地元負担金二十万となっております。

四十三年六月に関東一都七県の代表四十校が当館山市に相つどいましてブロック別の高校剣道大会が開催されるわけでございますが、地元が主場からこれを助成して参りたいという意味合いで二十万計上いたしまして、以上一めで二百三十一万三千円を十九節で計上した次第でございます。

次に二目、体育施設費につきまして御説明申し上げます。

前年度に比較いたしまして四百七十四万一千円増で本年度八百七十七万円を計上いたしたわけでございます。

まず十一節の需用費でございますが、四十一万月を計上
いたしまして、そのうち、おなじものは消耗品十七万八
千月、これは浄化装置の薬剤購入費でございます。
又熱水費三十二万一千月を計上いたしまして、これが同様、浄化装
置の主として電気料、水道、給水関係でございます。
十五節の工事請負費でございますが、残念ながら、過ぐ
る一月に落雷火火による焼失からプールの管理
事務所、脱衣室等焼失いたしまして、わけでございますが
この際、プールも光側にござりまする合宿所が老朽化し
てきておるということから、管理室、建物、さらに合宿所
を加えてというふうな構想の中で、再建して参りたい
という二とで、七百三十万を計上いたしまして、
十八節の備品購入費でございますが、十五節で申し
上げました再建計画に伴います備品関係の整備

で二十五万円、さらに浄化装置の操作に伴います。ホ
ンベ購入費、二万円、計二十七万円を計上いたわり
てでございます。以上御説明申し上げまして、終りたい
と思っております。

(市民センター事務取扱者 登壇)

市民センター事務取扱者(太田博雄君)一三二ページをお開
き願います。

市民センター予算について御説明申し上げます。
今回計上いたしまして、五目市民センター建設費六千六百
十五万円は、昨年の三月議会におきまして議決をいたしま
した四十一年度より、三カ年継続費の四十三年度分
でございます。四十一年度二千七百十万円、四十二年
度に一億二千七百五十八万円、今回六千六百十五万円
で一応市民センター二億千八十三万円、継続費が充

了するわけでございます。

次に大目、市民センター施設費でございますが、昭和四十三年度当初予算といたしまして九百万を計上いたしまして、このうち百万が五月一日に予定されております。市民センター落成式と五月九日に行なわれまして、このうち費用が含まれておりまして、この内訳といたしましては、八節の報償費十八万は金、十一節の需用費、三百四十五万八千のうち、消耗品十万、食料費で七十万、十二節の役務費、電信運搬費、三十三万のうち、二万以上が落成式並びに、このことと致しまして、関係が百万のうち内訳でございます。これらの費用を差し引きまして残り、八百万が事実上、市民センターの運営のための予算となるわけでございますが、このうちおもなものが、つぎのように十一節

需用費中ノ光熱水費百七十万円は市庁舎におき
ます光熱水費等も参考といたしまして積算のさいた
もふてございます。

十八節ノ備品購入費の百万円は今後ノ連累工程に
おきまうして生じまするところの諸備品の購入費とし
て計上いたしたるでございます。以上市民センター
施設費ノ概略でございます。現在うところ市民セン
ターも建設途上にありますノことと標準につきまうして
もはじめてのケースであります。総トでサマメや
すというもうを考えまうてり予算でございます。
よろしく御了承を得たくお願い申し上げる次第で
ございます。

(財政課長 登壇)

・財政課長(長谷川公治君)大へん申しわけございませんが

二一ページの住宅費について御説明申し上げます。
住宅管理費といつてまいりて本年度四十五万円を計
上いたしてございします。

前年対比二万三千円増でございしますが、これは現在
あります市営住宅百九十三戸を運営管理いたして
いく上り必要経費でございまして、通常の経費がど
う中心となつております。

かわつておりますも、十五工事請負費として
十二万五千円を計上してございします。

これは笠衣田地、沼田地に対して夏季の福
水対策として井戸を一個ずつ新設をいたしたいと
いう考えの費用でございします。

他う費用につきまゝでは前年と大差ございせん
で付託により御了解をたまわりたいと存じます。

続きまして一三六ページ十一款災害復旧費でございます。
これは存目でございまして、御了承をたまわりたい
と存じます。

十二款公債費、本年度予算額四千五百七万七千円
用でございまして、前年対比で千七万円の増額でござ

います。これは四十二年末現債額三億五千六百二十三
一万四千円を予定でございまして、これに対して四十三年度
に起債として収入をいたします。額が六千八百万ございま
す。それに対して三に計上しております。先金
二千二百二十五万九千円を本年度支払う予定でござい
ます。

従いまして四十三年度に残ります。起債総額は四億
千九十五万五千円になる予定でございまして、

これに対して二百万の利子として二千二百七十九千円

を計上いたしております。元利とも付記欄にあります。
ような事業債品目の金額でございますので、説明欄
により御了承をたまわりたいと思っております。

一時借入金利子として本年度九万円を計上いたして
おります。昨年に比べまして大差ございませんので
付記により御了承をいただきたいと思います。

十三款に予備品として前年度同様二百万円を計上
いたしております。

これは予算外、或いは予算超過の費用に充てると
めりもございません。

以上で歳出入概略の説明を終らせていただいた次
第でございますが、歳出入各款ごとの数字は二ニ
ページに一覧表として特定財源と一般財源に区分して
ございますので、審議の御参考にしていただきたい

と思ひます。

以上歳入合計　十億六千七十四万八千円ということに
相なる予定でございます。

続きまして歳入に参ります。

二五ページでございます。本年度市税総額といたしま
ま一億四千八百七十八万七千円を計上いたしまして、
でございますが、これは四十二年度決算見込み額三
億八千四百八十三万七千円に對しまして二・二％増とい
う伸び率になつております。こううち、現年度分と滞
納繰り越し分にわけますと、現年度分が四億二千二百
十九万、繰り越し分が六百五十九万七千円ということに相
なります。なお、市税に關しましては、現在国会で
審議中の地方税法が改正をましますと若干の相
違がでるとは存じますが、国の予算編成に對する

通知に基きまして現行の体制のもとに予算編成をいたしております。

市税総額といつては国々地方財政計画によりますと二五％程度伸びるというふうな計画がもうございまして、財政的に小さな市でございまして、大体私ともう考え方としては四十二年度当初予算対比が一・二六％というふうにおさえられます。

国々減税計画によりますと市税関係は初年度二百七億というふうなことでございまして、このうち約六％が市町村税ということに相なりますので、大体私ともう方ではこの平均値から見ると、減税があつても若干伸びが見込めるということ、で、それと編成をいたしております。

市民税でございますが、個人分で一億千四百三十二万五千円を計上いたしてございます。

市民税に対しては、地方税法上の減税が予定されてございますが、私どもも算定から考えますと、自然増が二千四百万程度あるというふうに推定いたしております。このうち減税による減収分が一千万円、差し引きいたしまして、千四百万程度の増収と申します。自然増収が見込めるといふ数字で、それぞれ計上いたしたわけでございます。

固定資産税につきましては、今度の地方税法につきましては、税率の制限だけでございまして、他のものについては影響がないようでございます。四十二年度の実績に対しては、一七・四四％を現年度より伸び率としておさえます。現年度が一億三千九百十九万

一千円を計上いたしてございます。これは家屋の新築
それから耕地の宅地化等、傾向に伴います、増収分
でございます。

国有資産等所在市町村交付金につきましては、千八
十七万一千円を計上いたしまして、これは前年度対比五
％伸びておりますが、前年度の実績からこの程度、
もろ収入見込みができるといふことで計上いたして
おります。

三項、軽自動車税につきましては、千百五十九万六
千円を計上いたしまして、これは、案体がある程度
そろっておりますので、これは一三％程度の伸び率
を見まして、現年度分千百三十三万三千円、滞納繰り越
し分で二十六万三千円を見込んで計上いたしてございま
す。たばこ消費税につきましては、本年度七十三万三千円

二千円を計上いたしております。

これは本年度ならば五月から値上げということに
相なる予定でございますが、値上げによる減収につい
ては国も財政計画の中で補償するような計画で
ございます。単なる伸び率を一〇％におさえまし
て、四十三年度実績に對しまして伸び率を見、七千三
百三十万二千円を計上いたしております。
電気がス税につきましては二千六百八十四万四千円を計
上いたしております。

これも地方税法の改正によりますと、ガスに對する現
在七百円が免税点がございしますが、引き上げて八百
円ということに改正される予定でございますが、ガス
につきましては税額がそう多額でございしません。
それ以上に電気の使用及びガスの使用量が伸びると

いうことで一ニ%程度増収を見込めます。二千六百八十四万四千円を計上いたしております。

本引入湯税につきましては、それぞれ付託により御了承いただきたいと思います。

都市計画税におきましては、千九百二十六万計上いたしております。

これは前年度対比ニ%増となっておりますが、固定資産税に対応いたしまして都市計画税も増収をさるわけでございます。都市計画の伸び率は、固定資産税の現年度分より若干上回るといふ計算の上からなります。ニ%をおさえて千九百二十六万を計上いたしております。

次に二七ページ、健康施設利用助税交付金、四十二年度これは追加で計上いたしまして、ゴルフ場に対する

入場税、そういう交付金でございます。大体千八百万
がゴルフ場の入場税、課税対象額といたしまして
その六分の一が市に交付されております。大体
三百万円ということに計上いたしております。
三教自動車取得税交付金が新たに計上されてお
ります。これは本年度新たに設けられたものでござ
います。免税価格は十万円でございますが、自動車
を売買した場合、その価格に對しまして百分の三
一定税率で税金が納付されるわけでございますが、
その十分の一に相当額をある一定の率をもちまして
道路の延長、面積等に案分して交付されてくるも
のでございますが、まだ政令等がはつきりしており
ません。一応存目として一百万を計上しております。
四款、国有提供施設等所在市町村助成交付金は

四十二年度実績が六百十三万一千円でございす。七%の伸び率を考えて六百五十万計上いたしました。

地方交付税におきましては一億九千八百万を計上いたしてございす。これは国が計画では二〇%伸びるという計画もいたしてありますが、当市の四十二年度の実績から考えまして二五%増という二とになすおりましたが、この四十二年度の実績のうち二百三十万ばかりが、その後減額になすおります。四十三年度はそれを金額くはるといふ数字にいたしますと実績一五%伸びてでございます。これはある程度収入をくはるといふうに考えております。

六款の交通安全対策特別交付金として百五十万計上いたしました。これは昨年度の直交法の一部改正によりまして初年度約百二億という国の数字でございすが、これは

を都道府県と市町村に對し、まして二對一の割合で
交付されるという事とでございまして、大体案分をいた
して見ますと、本市は百五十万程度は交付される見込
みでございまして、同額を計上いたしてございまして、
七割分、担金及び負担金につきましては、それ以外の歳出に
対応いたしまして、収入される数字でございまして、
付記により、御了承いただきたいと思ひます。

入款、使用料及び手数料関係でございまして、使用
料として二千四百四十六万二千円を計上いたしてございまして、
前年対比三百二十八万八千円、増でございまして、この増う
おもなものは、市民センターの使用料として百二十万、

それと幼稚園の使用料として千四百八十四万六千円
計上いたしてございまして、このうち二年生になつた
場合、使用料が増額されたのがおもなものでございまして、

他、使用料につきまゝでは、それぞ、四十二年、度、十月まで
の実績等を勘案いたしまして計上いたしまして
願てございます。

手数料といたしまして、千百七十万八千円を計上いたして
ございます。前年対比が、二百三万八千円増と相なつて
おりますが、このうち、おもなものは、総務手数料、三百
五十万でございますが、これは、それぞ、付記にかかげて
おります。各手数料の金額ごとに、四十二年、度、の実績
から、おさへまして、収入をその予定と考へまして、計上
をいたしたものでございます。

三、ページ衛生手数料として、七百九十六万八千円を計上い
たしてございますが、これは、条例から見まして、対象戸数
を勘案いたしまして計上いたしたものでございます。
国庫支出金に参りまして、総額一億千六十万八千円を

計上いたしてございます。国庫支出金につきまゝでは
全部が歳出に対応する金額でございますので、
それぞれ付記により御了承をいただきますと思ひます。
十款果支出金につきまゝで総額四千三百五十九万九千
円を計上いたしてございます。これもそれぞれ歳出に
対応する金額でございますので付記により御了
承をいただきますと思ひます。

四ページ 財産収入でございますが、財産運用収入と
して六十四万計上いたしてございます。

昨年対比で五十三万四千円減となっておりますが、
これは昨日御決議をいただきますに補正予算等
中で財政調整積立金、制度改正に伴ひまして、
減額されたものが大きなものでございます。

二項の財産売却収入として千七百四十九万五千円を

計上いたしてございます。

こつうち土地の売却収入として千七百三十万、こつうち約七百三十万程度につきまゝでは、ブルウ再建に伴ひまゝでその敷地の一部を払い下げて、これを新築費に充てまう、という目的のものがあります。その他千四百ばかりに對し、まゝで現在五件ばかりですでに貸し付けをいたしまし、まゝで家屋が建つておるところに對し、まゝで買収をいたしたいというような申し出があります。現在価格が変動中でございますが、これが四十三年度中に妥結する予想でございます。千三十万ばかりをこゝに計上いたしてございます。

二目の建物売却収入につきまゝでは、市差住宅を分譲いたしまゝで分割払いをいたしております。金額で契約金額でございます。

寄付金本年度千五百七十四万七千円を計上いたしました
四十二年度対比で千十萬七千円減額になつておりますが
減額のおもな理由は熊山町高校の寄付金が減
額されたものであります。

寄付の内容はつきまゝでは、そのうち歳出に対応いたし
まゝて受益者負担或いは地元負担のやうな性格
をとおぼしめて、そのうち寄付される金額でございます
ので、付記により御了承をいただきたいと思ひます
十三款に繰り越し金として本年度二千六百五十万計
上いたしました。

四十二年度対比にいたしますと一千万円の減額でござ
います。これは四十二年度予算執行率を九八・五
％と考えまゝて、おおまそ二千万円が財源、それから予
算計上以上の収入が若干税輪を中心にいたしまして、

予定してございますので、それをおおよそ六百五十万と見
まいて二千六百五十万を計上いたしております。

十四款、諸収入につきまゝでは大きなもうといたしまし
ては、競輪収入でございしますが、三項の収益事業収
入として二千二百万円を計上いたしております。

これは四十二年度対比で申しますと二千八百万円増額
ということに相なっておりますが、対四十一の伸び率を
考えて見ますと一〇%の伸び率になっております。
四十二年度、四十三年度、伸び率でございしますが、四
十二年度は後半に千葉競輪場の施設改善がござ
いまして、若干売り上げが伸びておるわけでございま
すが、天候の都合によりまして二百万位の相違が
現われますので、対四十二年度の伸び率を九%とな
るえまゝで二千二百万円計上いたしたわけでございします。

なお四十二年度の収入におきまゝでは、約大千六百万というふうを考えております。

四項の貸し付け元利収入等におきまゝでは、歳末におきまゝで、支出いたしまして、歳入で入るという数字でござりますので、それぞれ付記により、御了承をいただきたいと思います。

五項の雑入関係で九百七万大千円を計上いたしましてござります。このうちおもなものは、過年度収入として生活保護費の果負担分が二百万円、これは果の補助金は、精算補助でござります。年度が常に入ずれるということから、二百万円を過年度収入として計上いたしたものでござります。

雑入として六百万一千円、このうち、大きなものは、予防接種の実費徴収三百九十二万三千円が大きなものでござります。

そのほか図書館を一時貸しとあります。その使用料
の収入が七十二万。これは大きなものでございます。他は
それぞれ付託により御承をいただきたいと思います。
十五款の市債につきましても、本年度六千八百万円を計
上いたしてございます。

保育所、建築三百十萬純真保育園の改築費として
民生費に計上いたしてございますが、それに対応する金額
として二百万円。

土木債として二千五百万円。これは道路整備、或いは
橋梁、録山港、或いはくしく園。これらの事業費に
対しまして、それぞれ起債で許可されます。額を或いは
率を勘案いたしまして、総額二千五百万円計上いたした
ものでございます。

三日の消防債として三百万円計上いたしてございます。

こゝは消防関係の施設整備に起債が許可されますので対応する三百万円を計上いたしてございます。

教育債につきましては、房南中学校の建設事業債が七百万、市民センターの建設事業債として三千百万計上いたしてございますが、こゝは財政繰り延べにまつたものでございまして、それやれおおよそ折衝済でございまして、確実に収入をさねるという考えから計上してございます。

以上歳入を概略説明申し上げましたが、歳入につきましても、各課目ごとに二ページにそれやれ計上をいたしてございます。それを特定財源、一般財源というふうに財源別にお示しいただいておりますので、御審議の御参考に使っていただきたいと思います。

以上説明申し上げました通り、歳入歳入額十億六千七十九万八千円という一ことに相なります。以上で一般会計の説明を簡単にさせていただきます。

副議長（西村真次君）この際おはかりいたします。本日の会議時間は議事の都合によりあらかじめこれを延長いたします。

これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

副議長（西村真次君）異議なしと認めます。よって本日の会議時間は延長されました。暫時休憩いたします。

午後五時四十分 休憩

午後六時十五分 再開

副議長(西村真次君)休憩前に引き続き会議を開きます。
議案第五号 昭和四三年度館山市国民健康保険特別会計
予算について説明を求めます。

(保健衛生課長登壇)

保健衛生課長(網島憲治君)国民健康保険特別会計予
算につきまして御説明申し上げます。

一四七ページ本年健康保険特別会計の歳入歳出それぞれ
二億七千七百五十三千円と定めたい。このように考えており
ます。この額は昨年度に比しまして五千八百三十九万
六千円増と相なっております。

すなわち事業勘定会計におきまして五千七百七十五
万三千円、上昇率二五・七％でございます。

直診勘定におきまして六百五十四万三千円増で

上昇率一三八・二％に相なりしております。

被保険者一世帯当りで申しますと、三万二千三百三十九月になろうかと存じます。

こつち予算上、被保険者一世帯当りが負担していただく額は、一万五千二百余月になろうかと存じます。地方債でございますが、これは直ちに勘定におきましてレントゲンを平年度購入いたしたいと考えております。それで、その関係で地方債二百万円を予定いたしております。

一五五ページ、地方債、それより起債の目的、限度額、起債の方法、利息、償還の方法は記載のとおりでございます。

三番におきまして、一時借入金、最高額を千五百万と定めた。こつちように考えるわけでございます。

大體本年度の医療給付費の一月当りが千八百万
見当になろうかと思ひますが、千五百万程度の一時
借り入りの最高額を定めていただいても、もし財政
の都合が悪い時に支払い關係に遺憾のないように
しない。このように考えております。

第四條は彈力條項の適用でございまして、ごらん
とおりでございします。

一七ページをお開きいただきたいと思います。

一般管理費におきまして、千二百八十萬七千円の計上
でございしますが、これは昨年に比しまして百七十万
二千円の増加でございします。おもなるものは大體人
件費でございします。

その他ものにつきましては、大體昨年度と、そう差が
ございしません。付記欄にまで御了承いただきた

いと思っています。

徴税費でございますが、三百八万二千円、昨年度に比べまして三十八万の増となっておりますが、この主たるものは、納税組合関係の報酬費でございます。

あとは付記によつて御了承いただきたいと思ひます。三項の運営協議会費は昨年度とほとんど差がございませぬ。

田舎、趣旨普及費でございますが、八千円の増でございますが、いいますか、これも付記欄によつて御了承いただきたいと思ひます。

保険給付費でございますが、本年度二億二千七百九十一万二千円、昨年度に比べてまして四千七百二十五万九千円の増と相なつております。これは後刻お手元に配付申し上げてございます参考資料によつて御説

明申し上げたいと思います。

療養諸費の中、財産費でございますが、本年度三百七十一件を予定いたしまして、百十萬三千円、これは実績に基きまして計算いたしまして、でございます。

三項の葬祭費でございますが、本年度百十一萬三千円、昨年度に比べまして七十五千円増でございますが、先日御決議いただきましたように、今までは二千円葬祭費について差を上げていたものを、今回二件より三千円に増額いたしたものでございます。

育児手当金でございますが、これも昨年度に比べまして九萬二千円増でございます。

内容的には付記のとおりでございます。

保健施設費で三百九十八萬五千円、これは昨年度

と比較いたしまして九十一万四千円増でございますが、
こゝ主たるものは人件費において三十万程度、そのほか
私ども保健施設と申しますと、被保険者の疾病予防
並びに疾病予防に関連いたしまして健康管理のため
もうも一般衛生費と関連を持ちながら、いわゆる最
大のわらいは疾病予防にあるわけでございます。

私どもその関係を担当しております保健婦が三人
おるわけでございますが、大体厚生省の設置基準
で三千五百人に一人という設置基準でございます
けれども全国的には七千四百人に一人の設置でござい
ます。当市は二万八千程度の人口でございますので
三人ではいささか手不足ではございますが、今回不足
を補う意味におきまして、こゝ中で備品購入費四十
三万四千円を計上されていただきました。こゝは機動

力を使いまゝてその効率を高めたい。特にこの関係については二分の一程度の補助金が国から予定されてゐるわけでありまゝす。

需用費、役務費はその自動車購入によつて生じます。九万六千円、二万円、消耗品、燃料費、修繕料、これはバイクを持っておりますから、その関係のもう保健衛生普及費でございしますが、二万三千円の計上でございします。これはいわゆる疾病の予防対策として一般会計で申しました保健調査会等の御助力をいただきまゝしてゐていきたいと考えております。

三目疾病予防費でございしますが、昨年度に比べて五万四千円の増でございしますが、この中に予定いたしておりますものは巡回健康相談というふうな関係で、大体対象人員五千三百人程度を予定いたしております。

ます。これは成人病を特に重点的に取り上げてく考え
方でございます。それから寄生虫予防を現在三カ年
継続で実施中でございます。来年度は神戸地区
が三年目に当ります。豊房地区が二年目、九重地
区が初年度、このように計画しております。

このようにまいしても、保健調査会に十分な助言をい
ただきまして遺憾ないよういていきたいと思います。
基金を積立金は存目でございます。

公債費におきまして二十四万三千円、先ほど申し上げまし
た千五百万円、一時借入金、利子でございます。
諸支出金におきましては、昨年と大差ございません
けれども、そううち返納金と書いてございますのは、
私どもの方で国庫補助金をもらっているわけでござ
います。が、年度経過いたしまして精算した場合、

場合によっては返納が生ずる場合もございます。
で、そのための存目でございます。

二万月には保険税の還付金でございしますが、これは、
保険税の過誤納関係の還付金でございます。
償還金はそれに伴いまして利子相当額という
ことになります。

予備費で百四十五万八千円、これは予算外支出並
びに超過支出に充てるための費用でございます。
お手えに配付申し上げてございます。資料をお開き
いただきたいと思います。

まず、三ページ世帯主の入院欄をあらういただきます
と思います。

一人当り診療費算出基礎表の付、と書いて
ございます。

こゝ金額が五千四百五十三円八十四銭一厘と出ておりますが
こゝ算出基礎のようきたるところ、四ページ、二二に
昭和四十一年度、四月から九月、七千八百四十九、診療
費、千三百三十五、千九百二十五、年間七千八百五十九、
二千三百十九万三千三百四十三円、以下四十一年度も同じ
ような形式に使いまゝ、数字が並べてございしますが、
四十一年度、四月から九月まで、八千六百六十二、千七百十六
万七千九十一円とございます。これは実績でございます。
そゝ次、年換算率というものがございます。

四十一年度間、二千九百五十一円十八銭二厘四十一年度、四
月から九月まで、千四百四十七円十八銭一厘という数字が
ございます。プラス、三千三百二十五円六厘、四十一年
度、四月から九月まで、千四百四十八円二十一銭三厘、
こゝいう数字がございしますが、これは、その年間、医

療費に對し、まゝで四十年度、四月から九月までの
ものを一年になおすといひます。又、年間費用額を
四月から九月までの金額で割り、さらに四十一年度
の年間を四月から九月までで割りまゝで、それをア
スで掛ける二分の一といふことになり、一年
といふことに相なると思ひます。

四十一年度、一人當り、年間推計額でございすが
これが主軸になるわけでございします。

四十一年四月から九月まで二千百三十九圓五厘
といふのは実績でございします。

それが後半、いわゆる十月から三月までの間にど
うなる形になるかといふ数字を、求めるために上
の数字を使うわけでございます。従ひまゝでこの
方式に従つて二二〇三とあります。これが四十一年度

の四月から九月まで、実績によるところ、後半への影響率（三〇・四）に比べて、一〇・五と低いと思ひます。それが四千四百二十三円九角という数字でござります。

それをさらに一年間、四十年度と四十二年度の自然上昇率、それにプラスしたところの四十二年度、四十年度のやはり上昇率、これを四十年度のもを四十年で割ります。一・〇三九とあります。

四十二年度を四十一年度で一・三七二とあります。これを
たしまゝて二分の一を掛ける。それが各年度の伸び
たもつを平均いたしまゝたもつが一・二三三という
数字に相なるわけでござります。従いまゝて四十二
年度年間推計額が四千四百二十三円二十二銭九厘
がいわける二つのような伸び方を示すであらうとす

数字が一・二三三で従いまゝて四千四百三十三月三十二
銭九厘に一・二三三を掛けたまうが五千四百五十三月
八十四銭一厘という数字に相なるであらうというわけ
でございます。それが世帯主の一人当りの診療費
ということでございます。

それから診療費表でございますが、一掛ける四十三
年度平均世帯員とありますが、世帯主と訂正して
いたしたいと思います。

世帯主の場合でございますが、年間平均八千三百
六十七人という数字でございます。

従いまゝて五千四百五十三月八十四銭一厘掛けると
三百六十七人、これが四千五百六十三万二千二百八十八月
三という数字に相なるわけでございます。以下その
様に従いまゝて、そのまでの数字は八まで大体同様に

ような考え方で伸び率を見ておるわけでございます。
そのうち、薬剤の支給とあります。二掛ける薬剤
の支給割合、二という数字を使っておりますが、その
計欄で二十万六千六百五十八円という数字があるわ
けでございます。これは薬剤の実績がいわゆる診
療費総額に占める割合を〇・〇〇一六とあります。が、
占める割合でございます。

それから、一人当りの診療の基礎のところは〇・三五三、
〇・五×大 〇・〇〇七一 という数字があります。が、
これはその計欄の一万五千四百三十六円九十八銭大厘に
占めます。入院の割合、入院外、割合、歯科の割合
も示す数字でございます。

それで二十万六千六百五十八円という数字が〇・三五三
倍がいわゆる薬剤の支給の占めます。割合が六

万二千九百五十円だ。こゝういふ数字に相なるわけでございませう。以下数字が書いてございませうが、薬割りの支給が行なわれているという二とでございませう。それから療養の給付総額でございませうが、二たす三、こゝが四千五百七十五千二百三十八、診療費総額と薬割支給の金額をプラスしたものでございませう。

それから公費負担額という数字がございませう。四掛けの五でございませう。

こゝは御案内のように国保の中には結核予防法と精神衛生法との関係が公費負担分として入つておるわけでございませう。

公費負担の分がどういふふうな割合で占められているかと申しますと、いわゆる療養費総額の

〇三二四、三という数字があるわけでございますが、これは診療費総額に占める結核予防法等、割合で
ございます。それを先ほど申し上げましたとおり、
〇・三五三、〇・五七六、〇・〇七一という割合でいたしま
したものが、結核予防法、関係が九十七万七千二百
七十一、百五十九万四千六百四十、十九万六千五百十二月
というふうな割合を示すというところでございます。
補助対象給付額、四引く五でございますが、療
養、給付費総額から、結核予防法公費負担
分でございます。これは補助対象から、この
額だけははずさるわけでございます。従いまして
四千五百七十五千二百三十八月から九十七万七千二百
七十一月を減額したものが、補助対象給付総額と
いうことに相なるわけでございます。

それより薬価引き下げ点数改訂補正関係でござ
います。これは御案内のように昭和四十二年十
月一日から薬価を大体三・九七%引き下げを行
なっております。

それから昭和四十二年十一月一日から点数改訂。いわ
ゆる先生方の技術料、入院料、その他について
点数改正がございまして、これが大体七・六八%の増
額を、たわけてございます。その関係をこの関
で見ているわけでございます。

薬価引き下げの関係は、文掛ける割合でござ
います。四千四百七十一万七千九百六十七月の三・九
七%。薬価を引き下げたのだ。その数字が百七十七
万五千七百円である。

点数改定の割合、これが〇・〇七六八、七・六八%

の引き上げを行なったわけであります。二ヶが三百四十
十三万五千百八月に相なるであろうということでございます。
改定は片方は薬価を引き下げて片方は点数改定
をして上げたわけでございます。八引く二ヶが実際に
に引き上げかということになります。

二ヶが入院においては百六十五万九千四百八月になるであ
らうということでございます。

それで薬価引き下げと点数改定後の給付費とあり
ますが、大したすえ、つまり補助対象給付費に薬価
の引き下げと点数の引き上げのものをたしあわせた
四千六百三十八万三千三百七十五月。世帯主の入院につ
いては、このような数字になるであろう。三ヶというもので
ございます。それでその下の計欄が下欄に示し
た数字でございます。

療養費の支給について療養に対する一口掛ける割合でございすが、療養の給付と申しますのは受診証を提示しないでかつた場合の割合をいするが療養費でございすが、その割合が二は実績が示す数字でございすが、

一口に対する割合一億三千二百七万六千八百五十二月に対すの二一という実績が示しておるわけでございます。それで療養の給付の掛ける二は、療養の給付と申しますのが、先の方の診療報酬の支払となつていくわけでございます。二は、私も一方は七割給付をいたしておりますので、一億三千二百七万六千八百五十二月の七割相当額が九千二百四十五万三千七百九十六月にわたるであろう、ということでございます。

療養がいわゆる一ヶ月欄、七割給付、百九十五万七
百七十五円、こゝなるであらう」といふことにてござい
ます。以下、そのような計算方法を以て計算いたし、ま
うかが、薬価引き下げ、点数改定後の給付費と申
します。が、世帯主、世帯員を含め、まう三億、
六百一十三万九千六百六十七円、こゝいう数字でござ
います。それをその計算いたし、まうな結果、私ども
の方で直接先方にお払いする総額が二億二千百
二十万九千七百七十七円であり、療養費の支給に要す
る額が五百七十七万四千八百三十七円、こゝいう数字に相
なるわけでございします。

それが一七五、一三、一番上欄、療養給付費と書いて
ございます。欄、二億二千百三十一万と療養費、五
百七十七万五千円、こゝいう数字でございします。

それから三日の審査支払い手数料でございすか。
 これは私も先生方にお払いするときに連合会におい
 て審査をいたしておるわけでございます。それが一件
 について今回値が下りまして九月五十銭。その金額が
 九十二万七千円でございす。

それから二表をござらんいただきます。これは歳
 入でございますが歳入のうち、国庫補助関係で
 ございす。

事務費負担金でございすが一六四ページ事務費
 負担金。七百七十四万三千円でございす。これは昭和
 四十三年度平均被保険者数二万八千五百十八人。
 昭和四十一年度事務費算額、省令基本額五百
 四十三万六千四百五十七円。これはそういう算定方法を用
 いておるわけでありす。が四十一年度事務費算額定

省令によりまして基本額が二億六千万、世帯構成補正係数というのがございますが、本市は三・四をちょっと上回っておりますと思いますが、その集数が一・一七七程度交付増加見込み率一・二一を掛けましたものが六百七十四万二千四百三十七円、これを繰り上げて六百七十四万三千円でございます。これは大体一〇〇％例年交付されるものでござい
います。これは一〇〇％計上してございます。

療養給付費負担金でございますが、第三ページの三億千六百一十三万九千六百六十七円、これが私の方でお医者さんにかかる総額でございします。それにプラス五百七十七万四千八百二十七円、療養費の支給総額でございします。それに国庫負担率が百分の四十でございします。それで掛ける百分の四十、それに例年でございしますと、大体交付率は九五％でございします。それを掛けて、まあたまたまが一

億二千二百三十七万九千七百四十一円という数字に相なるわけでございます。こゝを切り上げまして一丈四ペーシの療養費負担金が一億二千七百七十二万四千円という数字に相なるわけでございます。

過年度分五百四十四万五千円、計上でございますが、四十三年度の大体の負担金が見込が一億八百九十一万程度に相なるであろうというところでございますが、このうち九五%程度交付される見込が、こゝはわかりませんけれども、大体例年九五%交付されるのであります。一かゝ。今年は今ほど申し上げましたように医療費の改定が行なわれまして総額が厚生省で算定したより上回っておりますので、この数字は四十三年度に交付されるものが少なくなつて過年度分としてくるが、或いはこの額を上回るかもしれない。こゝは全部

算定して見ないと国は予算の範囲内で交付いたします。通例とすれば、大体九五%程度入参りますけれども、そのことはもろろ見ないとわからないというものが現状でございます。

保健婦補助金でございますが、二項の一日三十九万九千円という数字をあげてございしますが、保健婦一人当りの基準額が四十二万でございます。

一人の基準が四十二万ではというて、保健婦は雇えないわけでございます。ところが大体超過負担と称するものの中に入るようでございます。それ掛ける現在

三人おりますので、百三十六万という数字が出てきます。それで補助率は三分の一でございます。九五%見込けりたものが、保健婦補助金三十九万九千円でございます。

助産費補助金 二これは補助対象額二千円、任意給付
でございます。二この場合には超過負担というものは
あてはまらぬと思います。基準額が三百七十一件
見込が七十四万二千円、三分の一補助の九五%交付見込が
二千三万四千九百六十六円を切り捨てまして、二十三万四千
円でございます。

調整交付金でございますが、九百九十九万一千円を計上
したわけでございますが、二これがやはり予算的には国
予算の範囲内で交付される打ち切りという形もございます。
でございます。

三に四十一年度調整対象需要額というものがございまして、
二この法律に基きまして一定のルールに従いまして対象
需要額を計算し、同様に対象収入額というものを
計算して、その差額をくくるわけでございます。

昭和四十一年度の調整基準額が九百三十二万月に本市は
相対しておるわけでありますが、これを大体、百分の九十
を支付さるであらうという見通しのもとに八百三十
八万八千月、さらにこれに加えまして保険税軽減の対象
額というものがございしますが、これは保険税の収入が少
ない者に対して一時的に軽減措置がございします。

一号、二号というふうに分けておりますが、大体十萬以下
の所得の人は一号ということになっております。

これは前年度の被保険者割、並びに世帯割の額
の十分の六を減額することになっております。

二号該当と申しますのは所得は十萬以上であるけ
れどもいわゆる家族一人について四万月の控除という
ことになりまして、それを二号と呼んでおりますが
こゝろ減額は、その前年度の被保険者割、世帯

割り十分り四を減額することになっております。

昭和四十二年度におきましては百五十九万三千円という数字になつておりまして、二倍の交付率、百分り九十を見込みまして百五十九万三千三百五十円、これをプラスした一もが九百九十一万一千円になろうかと思ひます。

県補助金でございますが、三十一万六千円が計上でございます。これは五と一、保健施設活動費について県が補助するものでございますが、それ以外の基準に従ひまして五万七千円、十五万九千円、合計三十一万六千円計上いたしまして。

財産収入として存目でございますが、御了承いただきたいと思ひます。 寄付金も同じでございます。

繰り入れ金が前年度五百八十九万の繰り入れ数字を持

っておりますが、本年度は諸般の事情から、これを、
なぐーまーで存目でございます。繰り越し金も存目
でございます。

延滞金でございますが、これは保険税の延滞金で
ございます。

預金利子は私どもが歳計現金の預金利子四十万
雜入では三十万四千円第三者納付金というのがござい
ます。これは交通事故等の場合におきましての第
三者の行為によるけがを――被保険者が診療を受
けた場合の第三者がそれを負担、もちろん交通事故
の場合、保険診療はいたすが原則でございます。
いたしますけれども、当然第三者がその者に対して賠償を
する場合には返していただくということでございます。

大体、それが十五万、それから返納金五万二千円、現年度分

五万と打つてあります。が、これは被保険者の資格移動に際しまして主として船員保険等に創が多いのであります。

国民健康保険から離脱いたしまして船員保険の資格を取得するわけでもございますが、その間保険証は二つある。たまたま国民健康保険の被保険者証にまづ診療を受けられた場合に資格がございます。うちには返納していただくことになっておりますので、その金でございます。

以上事業勘定における歳入歳出を終ります。直診勘定でございますが、これは事務長に説明をお願いします。

参考資料のページをお開きいただきたいと思います。保険税の賦課に当りまして私どもの方で法律的な

約束ごとになっております。そのうち当該年度の初日における療養給付費の七五％を課税することがなつております。一か一ながら療養給付費の七五％を課しますと膨大な数字になるわけでございます。保険税はかなり高額になるわけでございます。従いまして私どもの方では保険税を算定する前に一定所要歳出総額というものをあらかじめ計算をいたしまして、本年度の場合二億五千三百一十万円、こういう数字をあらかじめわけてございます。その中から先ほど申し上げました保険税現年度分以外、歳入総額が一億四千九百八十八万五千円に相なるわけでございます。歳出総額から歳入を引きます。保険税を除きます。つまり残りの数字が、一億三百十二万五千円でございます。これを保険税として課するわけでございます。

そういたしますと、こゝを逆算いたしますと、百分の九十七
の収納見込みで一億三百十二万五千円という数字は一億
六百三十一万五千円であるということです。こゝでございます。

それをさらに逆に調定割合、百分の九十三とございます
が、こゝは保険税は五万円が限度額でございます。
それと先ほど申し上げました保険税の軽減見込み額
というものが、百五十一万三千円になります。

そういたしますと、課税総額におきまして一億千五百
八十三万一千円という数字があるわけでございます。
それを元に戻しますと、一億千五百八十三万一千円から
保険税軽減見込み額、百五十一万三千円を引きますと、
いわゆる端数、切り捨ての関係、並びに五万円の
限度額、それらがあてはめられますが、そういうものが
百分の九十三程度に相なるわけでございます。

一億六百三十一万五千円。これが保険税の調定額であり、
そのうち収納率は百分の九十七を予定いたしまして、一億
三百十二万五千円という保険税の数字が出るわけでござい
ます。

それを一世帯当りの平均の調定額でいたしますと、一億
六百三十一万五千円割る平均世帯を八千三百六十七世帯
一万二千七百六十円という数字が出ます。これが昨年度
の一世帯当りの金額にいたしますと、大体二三%強と
いう値より、率を示すわけでございます。

以上で事業勘定の説明を終らうていただきます。

(診療所事務長登壇)

診療所事務長(野中圭太郎君)引き続きまして、直診勘
定について御説明申し上げます。

一七九ページをお開き願いたいと思っております。

一、教務費でございますが、本年度は九百九十二万六千円でございまして、百六十六万三千円の増でございます。こゝにおきまゝは人件費でございます。その他につきましては報償費、八万円でございます。こゝは診療場所におきまして大きな手術をする場合、千葉大、市内の先生をお願いする際の謝礼金でございます。ます。

次、十節、交際費でございますが、こゝは診療所の交際費でございます。

十一節、需用費、四十四万九千円でございしますが、こゝは説明欄にまづ御了承いただきたいと思ひます。

十二節、役務費でございますが、こゝは電話料、及び自動車保険料等でございます。

十八節、備品購入費、こゝは洗濯器、及び自動車のラジ

才等を購入する予定でございます。

次々十九節、負担金補助及び交付金三十五万六千円、
このうち職員退職手当組合負担金と市職員互助
会を除き、前年度と同額でございますので、該
明欄により御了承いただきたいと思います。

二款医業費でございます。千三百五万二千円でございま
六百七十二万円の増でございます。このおもなものは十八
節、備品購入費でございます。これはレントゲンの購
入でございます。現在でございますレントゲンは昭和三十年
頃購入されたものでございまして、だいぶ機能も低下して
おりますし、骨などを写す場合はありましかるものでござ
います。消化器系統を撮影する場合、不鮮明で
ございまして、今回これを買いかえるものでございます。
十一節、需用費でございますが、これは医療用の消耗

器材及び消耗品でございます。

又、土節九百万円でございますが、これは医薬品及び衛生材料等、購入代金でございます。

四目、寝具費でございますが、これは存目でございます。五目、検査委託費でございますが、これは診療所に、おまゝして、検査ができないものを医師会病院に委託する。その委託料でございます。

三、敷の施設整備費一百万、二百土万八千円の減でございますが、これは前年度におきまして、医師住宅を建設いたしましたので、本年度は、そういう大きな事業がございまして、需用費五千万と役務費五千万のみでございます。

四、敷公債費でございますが、これは三十九年に現在の診療所を新築いたしました際、起債をいたして

その償還金でございます。

次う五款諸支出金でございますが、これは存目でございます。

大教予備費でございますが、六十四万八千円を計上させていただきます。

歳出合計 二千四百四万三千円でございます。

これに對しまして、歳入第一款診療收入一項入院収入といたしまして、一、国民健康保険診療收入といたしまして、二百五十万円、二、社会保険診療收入といたしまして、八十五万三千円、三、一部負担金といたしまして、国保の一部負担金八十七万八千円、社会保険の一部負担金といたしまして、四十万九千円、合わせて百二十八万七千円でございます。

その他、診療收入は存目でございます。

次イ外來収入でございますが、千七百五十二万七千円に對し、まゝ四百六十九万六千円の増でございます。

そのうち二目、国民健康保険診療収入でございますが、こゝが四百三十七万二千円、社会保険診療収入としまして九百十一万、この内訳は、説明欄にまゝ下御了承いただきたいと思います。

三目一部負担金でございますが、三百八十四万八千円、この内訳も説明により、御了承いただきたいと思います。四目、その他診療収入でございますが、九万五千円、三項その他診療収入といつたまゝ、諸検査収入十万円、こゝは成入病等の検査料でございます。

次イ第二款使用料及び手数料、こゝは、文書料といつたまゝ、一万二千円、診断書及び諸証明等の文書料でございます。

次の三款国庫支出金、これは存目でございます。

次の四款県支出金でございますが、これはレントゲン購入に際し、まして県からの補助金を二十万円予定してあるわけでございます。

五款財産収入以下、九款諸収入までは存目でございます。

十款市債、これはレントゲン購入事業に對し、まして二百万円の市債をお願いするわけでございます。

以上合合わせまして二千四百四十万三千円でございまして、よろしくお願いいたします。

。副議長（西村真次君）

議案第六号昭和四十三年度簡易水道事業特別会計予算の説明を求めます。

（衛生施設課長 登壇）

・衛生施設課長(吉田耕一君)一八九ページ 篠山市の簡易水道事業の特別会計四十三年度の予算でござい
ます。歳入歳出千五百二十九万七千円といたしまして
差えるわけでございまして、昨年の当初に比較いたしま
して六百六十五万九千円の増というところに相なるわ
けでございします。

以下各款ごとについて、説明は別表によりまして
申し上げたいと思ひます。

なお、地方債につきましても、自治法の規定によりま
して起すことが出来ます。地方債の目的、或いは限
度額、起債の方法、利率、及び償還の方法につ
きましても、別表第二表、地方債によりまして、御
了承いただきたいと思います。

以下明細書により、御説明を申し上げたいと思ひます。

一九九ページ。一款事業費でございますが、本年度三百三十四万八千円を計上いたしたわけでございます。昨年対比十六万四千円増という事に相なるわけでございます。

一目、一般管理費でございますが、十六万余の増につきまゝては、給料の改定等に伴います増額が主なるものでございます。

一般管理費につきまゝては、管理いたします上に必要経費を十九節まで、個々説明欄にありますように、額を計上いたしましてお願いしようとするものでございます。

次の二項の水道管理費でございます。

本年度千四十九万四千円をお願いするわけでございまして、六百四十八万八千円増ということに相なる

わけてございます。

この増のおもな理由でございしますが、十五節の
工事請負費におきまゝて七百三十二万円を計上
したわけでございします。これは西押地区にござい
ます簡易水道の水源確保のため二つ井戸を掘
るという計画によりまゝて水源調査等もいた
したわけでございまして不足水の補給をはかつて参
りたい。このように考える次第でございします。

なおそのほか、宮城水道関係の滅菌室の老朽に伴
いましてこの建築工事をいたしたい。

合わせまして七百三十二万円をお願いするものでござ
います。以下各節につきまゝては水道を管理す
る上に必要な経費を昨年の実績等とをくらひ合
わせまして計上いたした次第でございします。ア、設

明瞭に御了承いただきたいと存じます。

二目の給水装置の工事費三十万でございますが、これも昨年、実績或いは新規購入等、面を検討いたしまして一応この程度を計上いたいたいと考えるわけでございます。

公債費につきましては簡易水道、取左間、それら、鉦切等、簡易水道建設に当りまして、起債に対する償還金等をここに計上いたした次第でございます。

なお、予備費につきましては三十万余をここに計上いたしまして、運営をはかつて参りたい。このように考える次第でございます。

一九七ページ歳入を御説明いたしたいと思います。

歳入合計千五百二十九万千円を計上いたしたわけでございますが、この財源といたしまして、まず地方債にお

きまゝで四百万円、一般収入、事業の財源にまゝ
八百九十九万七千円、その他収入財源といたしまして二百三十
万円の歳入を見たわけでございます。

歳入の負担金等につきましては新しい加入も昨年の
実情等を考慮いたしまして前年同様を見込
んだわけでございます。

水道使用料でございますが、昨年対比七十余万
見込で八百四十五万円を計上したわけでございます。
そのうち水道使用料につきましては八百二十三万計上
いたしまして。

二節量水計の使用料につきましては、二にござい
ます。二十万余をこの一区域にございすも、を計上いた
した次第でございます。以下は昨年のものを計上
したものでございす。

繰り入れ金につきましては本年度二百万を一般会計からお願いいたします。このようにもつてございまして、二と起債をお願いいたします。井戸くつさくをして水源の確保をいたしたい。このように考えて繰り入れ金を二で二百万お願いいたします。というもつてございします。

繰り入れ金につきましては大体の実績を見まして五十万を計上した次第でございします。その他市債につきまして四百万を求めまして財源といたしたい。かまうに考える次第でございします。以上歳入歳出とも千五百二十九万七千円をお願いいたします。

副議長(西村真次君)議案第七号、昭和四十三年度館山市と畜場特別会計予算の説明を求めます。
(衛生施設課長 登壇)

衛生施設課長 吉田耕一君)続きましてと畜場会計に

つきまして御説明をいたしたいと思います。

本年度歳入歳出とも五百十二万一千円といたいたい
と考えるわけでございます。

昨年対比三千三万の減ということに相なるわけでござ
います。

以下明細書によりまして御説明を申し上げたいと思
います。

二一六ページ「事業費」でございますが、事業費等に
つきまゝでは特に昨年度と変わった点はございませ
ん。従いまして説明欄によりまして御了承をいただ
きたいと思つてわけでございますが、十五箇の工事請
負費におきまして、豚の係留所を拡張いたしたい
ころように考えるわけでございますが、現在ございま
す。が、極めて狭小の上に老朽化してきておるとい

ような現状からいたしまして今回五十万をお願いいた
しましてこの改善をはかつて参りたい。このように
考える次第でございます。

公債費につきましては冷凍・冷蔵施設等の起債に
伴います。元金利子の償還というふうなものでござ
います。歳出合計五百十二万一千円というふうにな
願います。わけでございます。

歳入でございますが、この財源といたしまして全部と
畜場会計の一般財源を元に推定していくという
ふうに考えるわけでございます。

まず、おもなものがと畜場の使用料でございます。一
四百七十五万円を今年お願いしようとするものでござ
います。

冷蔵施設につきましては昨年に比較しまして十三万

減を見ておるわけでございますが、最近の業者の設備が充実さしまして、個々冷蔵施設も整備されてきておるといふような関係からいたしまして、私も考えておった割合より頭数が少なくなつてきておるといふのが現状でございます。四十二年度の実績を見まして本年度十七万程度というふうに一応見込んでここに計上した次第でございます。以下繰り越し金等につきましては、この程度が見込みを立てた次第でございます。歳入総額五百十万一千万に相なるわけでございます。

以上でと畜場会計を終らうといたします。

副議長(西村真次君) 議案第八号 館山市休養施設特別会計予算について説明を求めます。

(商工観光課長 登壇)

商工観光課長(山田俊康君) 説案第八号について御説明
申し上げます。

昭和四十三年の休養施設特別会計、歳入歳出それぞれ
二千九百四十万円をお願いしたい。昨年と比較いたし
まして、九十七万七千円増、事項別明細書によりまして
歳出から御説明申し上げます。

二三三ページ、経費費、本年度二千六百四十九万二千円
九十万四千円増、一般管理費九百五十一万三千円昨
年と比較いたしますと、百八万二千円増となっております。
ります。これは二三六ページ給与費明細書がござ
います。

昨年職員数十三名でございまして、が十四名、
一名増員になりまして、昇給、人事異動等によ
りまして合計額で百万余り増とわりました。

現在あそこに従事しておりますものは事務職員三名、調理士三名、応接員八人で職員数十四人、經常的な作業員としてボイラーマン、付近の清掃等をやっております者が一人、洗濯を主体にしております者が一人、賃金職員としております。統計で十六名でやっております。なお、お客さんがたくさん参りますときは臨時に雇い上げて補っております。二三四ペーシ経営費でございますが千六百九十七万九千円、昨年に比べまして十七万八千円の減、今年度特にかわっておりますところは業務用の備品で従前あそこはふとんを二枚ずつ使っておりますが、他は国民宿舎等々を調べましたところ、大多数がマットレスを使っておりますということで綿や打ちかえし等をまとめまして、マットレスを三千円で百枚ほど

三十万予定いたしまして。なお原材料費で多少値
上り分を見まして十一の需用費、原材料購入費、
千七万七千円、昨年は九百万台でございます。

それから昨年とかわりありません。実際費が五
万円であつたものが十五、これは鳩山先生が胸像の
除幕式関係で特に十万円をお願いした次第であ
ります。

経費費の他の部分については大体前年と大同小異
であります。付記欄によつて御了承いただき
たいと思います。

公債費におきましては、それぞれかかげてあります
とおりであります。

歳入に移ります。

二三ページ事業収入で前年に比較しまして三十三万

伸び率が非常に落ちておりまして、予定いたっています。
お客さん二万五千五百人という数字でございます。

この大きな原因は、国民宿舎が県下にもうすぐでい
十カ所もできまして、非常に経営が苦しくなつて
参りまゐる。大いに今後もあり、発展させるように
努めて参りたいと思います。まだ四十二年度
の実績が出ておりませんけれども、いまでも全国で
上位にランクされることは間違いない。現在、利用
率は六五％程度であります。事業収入二千七百
二十万六千円、使用料で三千万、諸収入で百八十三万
一千円、歳入歳出二千九百四十万円、お願いいたし
たいとございます。

副議長（西村真次君）議案第九号 昭和四十三年
度 熊山市熊山ユースホステル 特別会計予算について

説明を求めます。

(商工観光課長 登壇)

・商工観光課長(山田俊康君) 二四一ページをお願いいたします。
ユースホステル特別会計として五百十一万四千円をお願いしたい
事項別明細書によつて御説明申し上げます。
二四八ページ経費費におきまして四百九十七万二千円、昨
年に比較しまして百三十四万三千円増、一般管
理費におきまして十二万八千円増、これは職員
異動によるものであります。

営業費におきまして百四十七万二千円増、三百五十八
万四千円に上つております。時にかかりましたこ
ろはお客さんがふえましてまかない材料関係が伸
びております。その他は夫々あつておりません。
付記欄によつて御了承いただきたいと思います。

歳入について申し上げます。

事業収入で四百九十六万六千円、百二十三万一千円増となつております。

従前より実績で申し上げますと、四十一年より実績が六千九百七十人、四十三年より収入見込みが八千人で見込かまらユースホステルの方はぐんぐん伸びておりますので、そういう伸び率を見て八千人、現在もう七人を突破して、四十三年度の決算においても八千人に近づきつつあります。そのような現況で、四十三年度の予算宿泊者八千人で予定して計上いたしまして、他につきましては付託欄によつて御了承いただきたいと思います。歳入歳出とも五百十一万四千円でお願ひいたします。ユースの説明を終わります。

副議長(西村真次君) 議案第十号 昭和四十三年度館山

市南部簡易水道特別会計予算について説明を求めます。

(衛生施設課長登壇)

衛生施設課長(吉田耕一君) 議案第十号につきまして御説明申し上げます。

現在実施中の南部簡易水道事業特別会計でございますが、本年度予算総額七千七百三十万二千円といいたらないと考えるわけでございます。

四十二年度と比較いたしまして二千九百九十七万二千円減というふうに相なるわけであります。こゝで見込まないないと考えるわけでございます。

当該区会金額につきましては、別表の第一表でございまして、それにより御了承いただきたいと思います。

次の地方債でございますが、地方債につきましては、別表にございます。第三表にありまして、御了承いただきたいと思います。わけでございます。

一時借り入れ金の件でございますが、本年度、最小額千五百万を御決議いただきたい。こゝように考えて、第三条にそれを規定し、たわけでございます。

事項別明細書によりまして、細部の点を御説明申し上げます。

二六ページ、歳出から申し上げます。

事業費のうち、一般管理費といつて、百十萬五千円。これは第八節報償費、一万五千円、竣工式の記念品代、本年度竣工を目途に現在やつておるわけでございます。完成後におきまして、こゝに必要な事務的な経費を、おろろ各節におきまして

ミニに計上いたすとございますが、この各節の金額は
明欄によりまして御了承をいただきたいと思つたわけでご
ございます。

二六八ページ水道管理費でございます。

水道管理費のうち一目の維持管理費でございますが
完成後におきますところの揮霍に必要なる需用費
関係、役務費関係、原材料、備品購入というよう
な関係で個々に計上した額をお願ひしようという
ものでございます。

二目、給水装置工事費でございます。八百八十四万
二千円でございますが

本工事、完成と相まちまして個々の流末工事をする
わけでございます。今、計画といたしまして六百世
帯乃至六百五十世帯を一応第一期の流末工事として

その程度はできるといふ考え方、それから加入とにらみ
合わせまして、このように工事請負費に七百二十万を
お願ひしようといふのもうでございします。

備品購入費におきまして、百余万円、量水計の購
入をいたそうといふのもうでございします。

第三項の建設費でございしますが、六千四百七十九万二千円
を願ひするわけでございします。このおもなものといた
しましては、一目で水道建設費でございまして、委託
料、工事請負費といふようなものがあるが、おもなもので
ございまして、今後の工事監督に対する委託をいたして
工事の完壁を期したいといふことと、七十六万余を
願ひするわけでございします。

工事請負費につきましては、当初一本にありまして
入札契約をしておりますが、四十三年度の工事予定

と申しますゆゑ、その金額六千三百八十九万円をここに計上したわけでございます。以下は付記欄により御了承をいただきます。

ニ款公債費でございますが、四十二年度、起債等に伴いまして一応四十三年度におきましては償還時に至りませんので、この利子を百九十五万円計上した次第でございます。

予備費につきましては二十五万二千円を計上した次第でございます。

次に歳入の御説明をいたしたいと思います。

二十六ページ水道費負担金につきまして加入率等からいたしまして一応七百五十から九百程度を見込んでこのような数字を計上したわけでございます。

使用料につきましては一応一部給水を本年より夏季か

う、実施いたらない。このような考え方で現在、工事を進めておるわけでございます。そう水道使用料、量水計の使用料というふうなものを一応、この程度、額を積算いたしまして、百三十六万を計上いたらない次第でございます。

国庫支出金につきまして、算定される基礎に基きまして、計算いたしまして、四十三年度に千三百五十万程度のものは、確実にいただけるという考え方から、ここに計上いたらない次第でございます。

県支出金につきましては、同様な積算の基礎に基きまして、確実な数字を計上いたさないでございまして、繰り入れ金につきましては、二千六百三十万を一般会計からお願い申し上げまして、事業実施の財源にいたらない。このように考えるわけでございます。

なお一般会計の繰り入れ金のうち、加入者負担金とい
うような言葉で申しますが、その面につきましては、
加入者たちが一般会計の方に寄付金で一定入いまして
それを一般会計から繰り出し金として一般市費とま
ぜまして、この金額を繰り出していただくというふうに
なっております。

元款市債でございますが、本年度二千万の起債を起
こしまして財源といたさない。このように考えておる
次第でございます。

歳入歳出とも七千七百三十万六千円をもちまして今年度
予算といたさないと考える次第でございます。

それから地方債に関します。現在高等が見込みに関
する調書或いは継続費等につきましては別表にござい
ます。表にありません。御了承をいただきたいと思います。

以上でございます。

副議長（西村真次君）本日、会議は三小にて散会といたし
ます。

次会は三月十六日午前十時開会と、その議事は
通告による行政一般質問を行なうことといたします。

午後七時四十分 散会

本日の会議に付いた事件

一 議事日程に同じ

出席議員

嶋田石蔵

伊賀多朗

藤田益治

磯辺博

白熊盛太郎

黒川正

三幣

勇

西村真次

小柴

孝

山田教宇

平嶺

昇

江田徳太郎

安西益男

島野茂樹郎

中村省吾

関武夫

小澤恵太郎

飯田義男

田中祿郎

秋山大三郎

安次徳順

望月照正

山口康

欠席議員

吉田勇治郎

石井輝又

菊井敏博

遠山ヨネ子

石井正

田村源治郎

鈴木市蔵

出席説明者

一 第一日目に同ト

出席事務局取員

一 第一日目に同ト

